

平成29年度福島県ＪＲ只見線復興推進会議

日 時：平成30年3月29日（木）
13時30分～14時00分
場 所：HOTEL SANKYO FUKUSHIMA
2階「芙蓉の間」

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

（1）只見線利活用計画について

4 閉 会

平成29年度福島県JR只見線復興推進会議 出席者名簿

日時：平成30年3月29日（木）13時30分～14時00分

場所：HOTEL SANKYO FUKUSHIMA 2階「芙蓉の間」

No.	所属及び職名	氏名	本人代理	代理職	代理氏名
1	福島県知事	内堀 雅雄	本人		
2	会津若松市長	室井 照平	代理	副市長	斎藤 勝
3	喜多方市長	遠藤 忠一	本人		
4	下郷町長	星 學	代理	町民課長補佐	室井 節夫
5	檜枝岐村長	星 光祥	本人		
6	只見町長	菅家 三雄	本人		
7	南会津町長	大宅 宗吉	代理	副町長	渡部 龍一
8	北塩原村長	小椋 敏一	代理	副村長	小椋 渉
9	西会津町長	薄 友喜	代理	町民税務課長	五十嵐 博文
10	磐梯町長	五十嵐 源市	代理	政策課長	穴澤 竜一
11	猪苗代町長	前後 公	代理	副町長	大川原 久夫
12	会津坂下町長	齋藤 文英	本人		
13	湯川村長	三澤 豊隆	本人		
14	柳津町長	井関 庄一	本人		
15	三島町長	矢澤 源成	本人		
16	金山町長	長谷川 盛雄	本人		
17	昭和村長	馬場 孝允	本人		
18	会津美里町長	渡部 英敏	本人		
19	魚沼市長	佐藤 雅一	代理	企画政策課まちづくり室長	広井 美智子
20	新潟県交通政策局長	水口 幸司	代理	副局長	田中 昌直
21	福島県企画調整部長	櫻井 泰典	本人		
22	福島県生活環境部長	尾形 淳一	本人		
23	福島県観光交流局長	橋本 明良	代理	観光交流課主事	齋藤 政明
24	福島県農林水産部長	佐竹 浩	本人		
25	福島県土木部長	大河原 聡	代理	次長（企画技術担当）	杉 昭彦
26	福島県会津地方振興局長	戸田 光昭	本人		
27	福島県南会津地方振興局長	大谷 英明	代理	次長兼企画商工部長	佐々 恵一

<事務局>

1	福島県生活環境部政策監	金子 隆司			
2	福島県生活交通課長	関根 昌典			
3	福島県生活交通課	菅野 稔浩			
4	福島県生活交通課	太田 順也			
5	福島県生活交通課	安部 英亮			

第 1 章　計画策定の背景

1．只見線の概況

路線距離 135.2km、駅数 36 駅、秘境を巡る
ローカル線、豪雨災害による甚大な被害

2．地域の現状

人口減少、高齢化率上昇、事業所数減少
＝地域衰退が加速する重要な転換期

3．只見線の復旧

只見線を復旧する意義、
上下分離方式の導入、地元負担の発生

4．只見線復旧に向けた取組

これまでの沿線市町、民間団体等による
只見線の復旧に向けた取組

5．新たな利活用

只見線の新たなステージに向かって、地域が
一丸となって只見線の利活用に取り組む重要性

第 2 章　基本方針

行政・企業・住民等が「目指すべき姿」を共有し、連携して取り組むことが重要

目指すべき姿

只見線が日本一の「地方創生路線」として生活路線、観光路線、教育路線、産業路線で利活用されるとともに、
それらが循環し成長することで、何度でも乗りたい・訪れたいと思える路線・地域となる。

実現するための取組（コンセプト）

コンセプト

「ここにしかない、ヒト・モノ・コト・イロを活かし、地域の未来を切り拓く」 - 只見線 135.2km の挑戦 -

コンセプトを軸とした基本戦略（ヒト・モノ・コト・イロを活かす）

3 つの基本戦略

① 魅力の創出と受入環境の整備

② 一元的な情報発信と
戦略的なプロモーション

③ 地域間連携と
推進体制の構築

第 3 章　重点プロジェクト

観　目指せ海の五能線、山の只見線プロジェクト

地域資源を掘り起こし、磨き上げ
ながら、列車内で会津の自然や文
化に触れることができる只見線なら
ではの企画列車を運行する。



教　只見線学習列車プロジェクト

ダム、自然、暮らし、農業、食、
体験など、地域の教育資源を活
用しながら、駅や列車内で環境
教育や体験学習を行う。



生　みんなの只見線プロジェクト

地域の機運を高め、マイルール
意識を醸成することで、只見線の
利用促進を図るとともに、来訪者
へのおもてなしの心を醸成する。



観　奥会津景観整備プロジェクト

奥会津の風景を阻害している
杉や雑木を伐採し、ビュースポッ
トを整備するなど、奥会津の美し
い景観を形成する。



教　奥会津サテライトキャンパス整備プロジェクト

サテライトキャンパスを開設し、
公開講座や学生のセミナーハウ
スなどとして活用することで、地
域の拠点となる場を創出する。



産　只見線産業育成プロジェクト

ガイドの養成や商品開発など、
只見線を活用しながら、地域なら
ではの産業を育成することで、住
民が活躍できる場を創出する。



観　教　生　産

只見線二次交通
整備プロジェクト

二次交通事業の拡
充や駐車場対策によ
り、生活利用、観光利
用の両面で、只見線の
利用促進を図る。



観　教　生　産

只見線魅力発信
プロジェクト

只見線のプロモーショ
ンを強化し、ウェブペー
ジやSNS、テレビなど、
様々な媒体により、地
域の魅力を発信する。



観　教　生　産

只見線利活用
プラットフォーム
構築プロジェクト

只見線応援団を活
用しながら、各団体が
活動しやすい環境を整
備するとともに、住民主
体の推進体制構築に向
けて土台作りを行う。



観　観光路線

教　教育路線

生　生活路線

産　産業路線

第 4 章　計画の進め方

1　推進体制及び財源

只見線利活用プロジェクト推進チームを中心とした連携
クラウドファンディングなど外部資金の活用

2 位置づけ

只見線利活用プロジェクト推進チームの協議による独自施策の推進
行政、企業及び住民等の連携を図るための行動指針

3　計画の推進期間

2018 年度から 2022 年度までの 5 年間

4　アクションプログラムの策定

具体的事業案(アクションプログラム)の
見直しによる各プロジェクトの推進

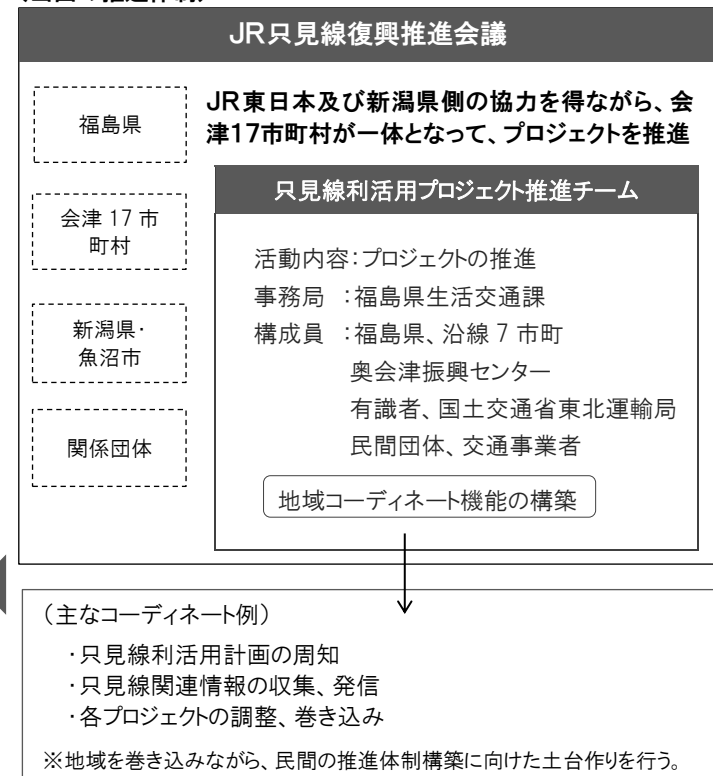
5　目標達成状況の評価基準

6　戦略の再検討
P D C A サイクルによる効果検証

< プロジェクト推進体制 >

主　体	期待される役割
県	広報(プロモーション)、土台作り
市町村 公的団体	各地域の魅力作り(掘り起こし、棚卸し)、受入体制の整備(二次交通、案内看板)、駅の美化活動
住民、 住民団体 民間事業者	只見線の利活用(只見線に乗る、ツアー・イベントの実施、旅行商品・特産品開発、ガイド養成)
J R	列車の運行、地域の宣伝、地域への誘客、地域の取組への支援等

(当面の推進体制)



(只見線全線開通を見据えた新たな推進体制)

既存の地域活性化推進団体の活用も視野に入れ、2018年度中に
県、市町村、民間団体、交通事業者など、官民が一体となった新た
な推進体制の構築を図る。



只見線 利活用計画

[案]

2018.3

目次

第1章 計画策定の背景	2
1 只見線の概況	2
2 会津地域の現状	4
3 只見線の復旧	6
4 只見線復旧に向けた取組	8
5 新たな利活用	9
第2章 基本方針	10
1 目指すべき姿	10
2 コンセプト	12
3 3つの基本戦略	13
第3章 重点プロジェクト	18
1 魅力の創出と受入環境の整備	18
[観光路線] 1 目指せ海の五能線、山の只見線プロジェクト	18
[観光路線] 2 奥会津景観整備プロジェクト	20
[教育路線] 3 只見線学習列車プロジェクト	22
[教育路線] 4 奥会津サテライトキャンパス整備プロジェクト	24
[生活路線] 5 みんなの只見線プロジェクト	26
[産業路線] 6 只見線産業育成プロジェクト	28
[全路線] 7 只見線二次交通整備プロジェクト	30
2 一元的な情報発信と戦略的なプロモーション	32
[全路線] 8 只見線魅力発信プロジェクト	32
3 地域間連携と推進体制の構築	34
[全路線] 9 只見線利活用プラットフォーム構築プロジェクト	34
4 重点プロジェクトの全体像と数値目標	36
第4章 計画の進め方	38
1 推進体制及び財源	38
2 位置づけ	38
3 計画の推進期間	38
4 アクションプログラムの策定	39
5 目標達成状況の評価基準	39
6 戦略の再検討	39



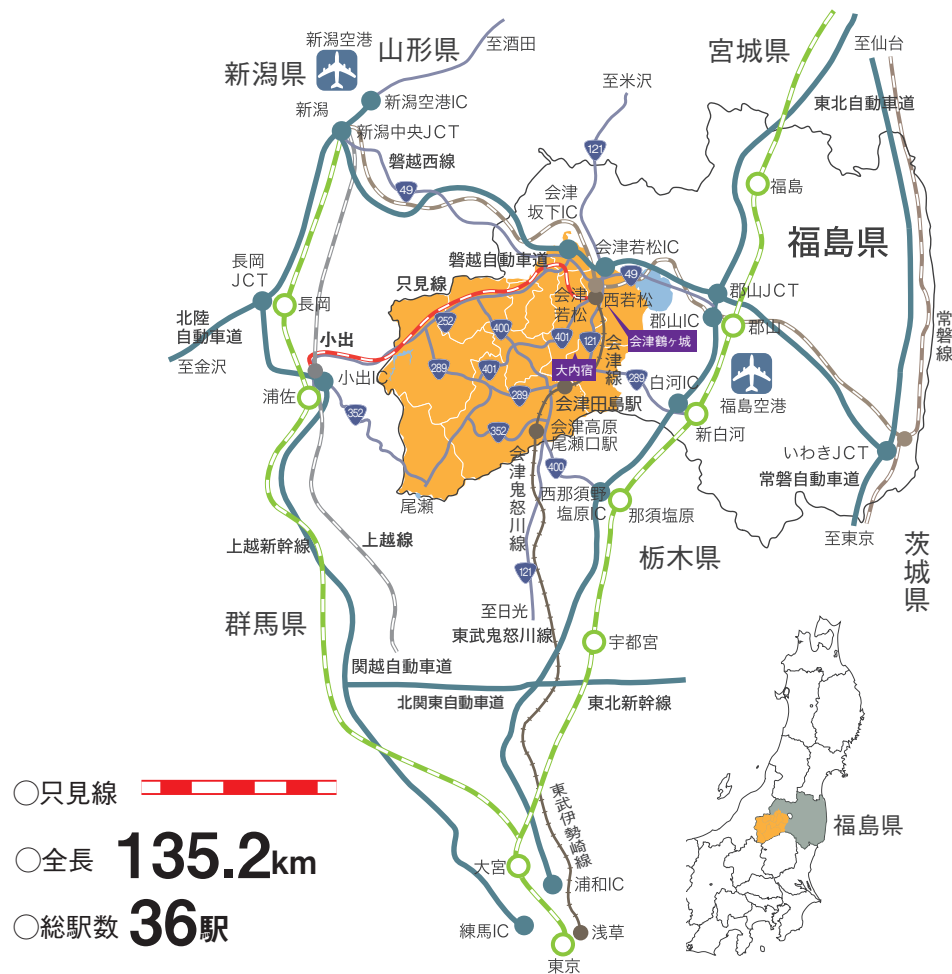
ここにしかない、
ヒト・モノ・コト・イロを活かし、
地域の未来を切り拓く

——— 只見線135.2kmの挑戦 ———

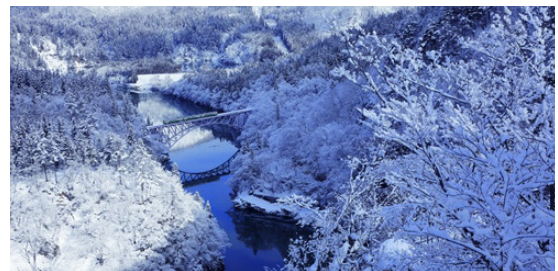
1 只見線の概況

JR只見線は、福島県の会津若松駅と新潟県の小出駅を結ぶ全長135.2kmの路線です。沿線地域は国内有数の豪雪地帯であり、只見線に並行する国道252号は、福島・新潟県境（六十里越）が冬期間通行止めとなります。

そのため、冬期間は、只見線が福島県只見町と新潟県魚沼市間の唯一の交通手段であり、地域にとって大切な生活の足となっています。



奥会津の雪景色



冬の第一只見川橋りょう(三島町)

只見線は秘境を巡るローカル線としても人気が高く、只見川や河畔に点在する集落、雄大な山々が四季を通じておりなす車窓からの絶景は、多くの旅行者に愛されています。

今や只見線の魅力は、国外にまで及び、中国のインターネット上では、「福島のみ見線は世界でもロマンチックな鉄道」と絶賛されるなど、ここ数年で、外国人観光客が多く訪れるようになりました。



秋の第一只見川橋りょう(三島町)

平成23年3月11日、東日本大震災とそれに伴う原発事故により、福島県はこれまで経験したことのない甚大な被害にあいました。こうした中で、追い打ちをかけるように平成23年7月に新潟・福島豪雨が発生し、只見線は鉄橋の流出や土砂崩れによる線路の崩壊など、甚大な被害を受けました。

なかでも、会津川口・只見駅間は被害が大きく、只見川に架かる第5、第6、第7の橋りょうが流失したほか、第8只見川橋りょう付近でも盛土の崩壊などが起きました。

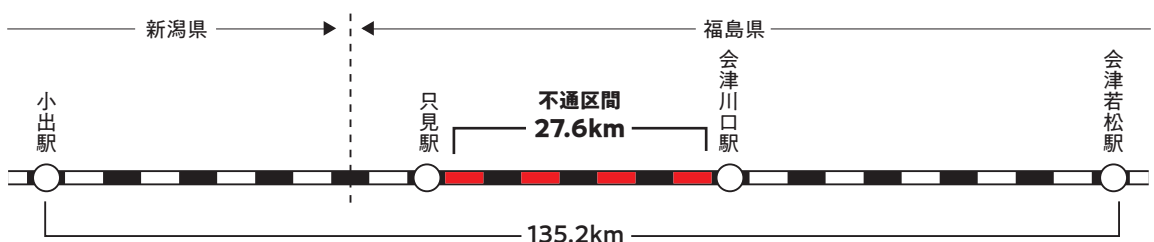


流失した第七只見川橋りょう(金山町)



草に覆われた線路(只見町)

災害後、JR東日本の懸命な復旧作業により、只見線の大部分で運行が再開されましたが、被害が特に大きかった会津川口・只見駅間は、被災から6年が経った現在でも不通となっており、バスによる代行輸送が続いています。



2 会津地域の現状

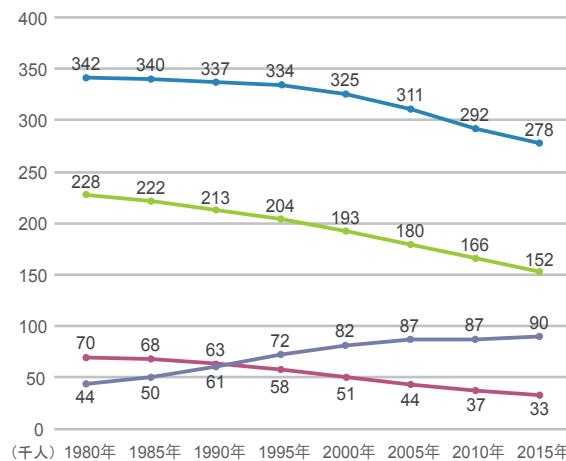
平成23年7月の豪雨災害により、家も道路も、そして只見線も甚大な被害を受け、その大きな喪失感をいまでも抱き続けています。

特に奥会津地域においては、人口減少・高齢化の進行により地域活力が低下し、地域衰退の加速の一途を辿っている中にあり、まさに、今が地域の存続を左右する重要な転換期となっています。

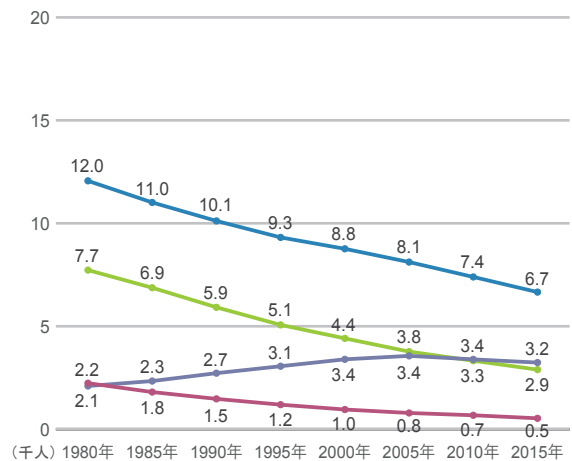
■会津17市町村の総人口 **277,754人** (2015年時点)

人口推移

■会津17市町村

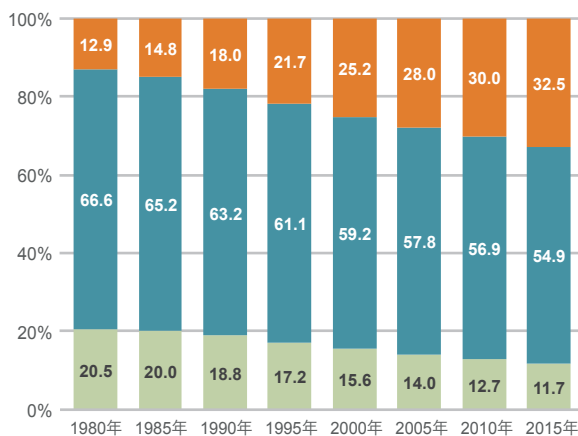


■金山町+只見町(不通区間)

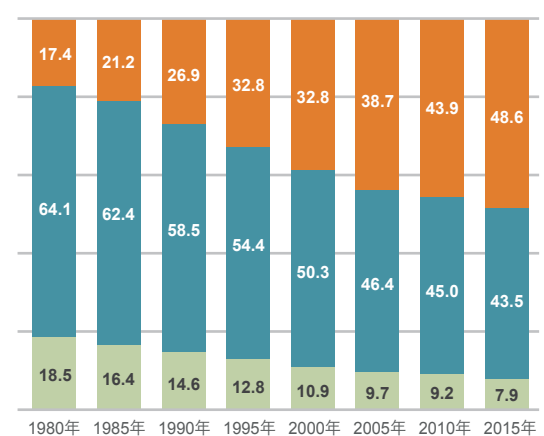


人口構成割合

■会津17市町村



■金山町+只見町(不通区間)

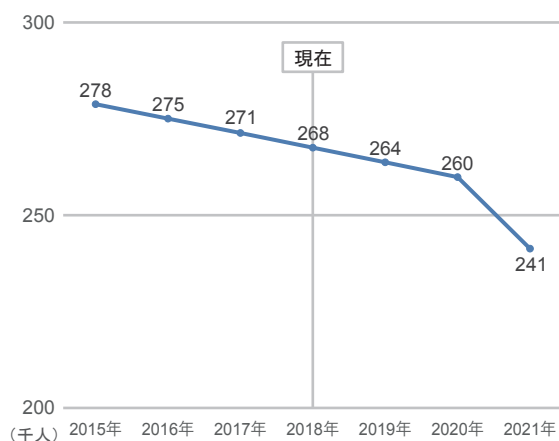


出典

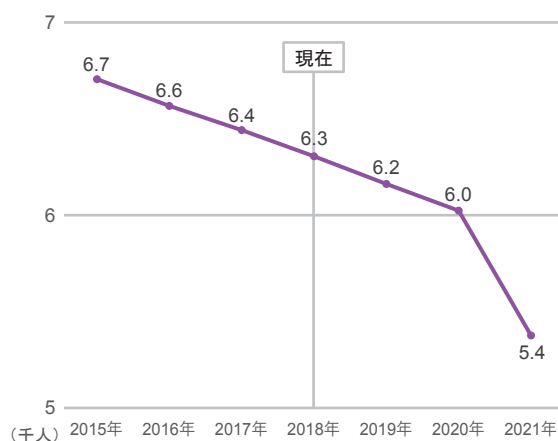
・人口構成、構成割合:地域経済分析システム(RESAS) | 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
 ・事業所2009年比推移:地域経済分析システム(RESAS) | 2014年(総務省「経済センサス基礎調査」、総務省・経済産業省「平成24年経済センサス活動調査」)
 ・人口推計:第7期介護保険事業(支援)計画における介護サービス見込み量推計データ(3月9日集計)

将来の人口推計

■会津17市町村

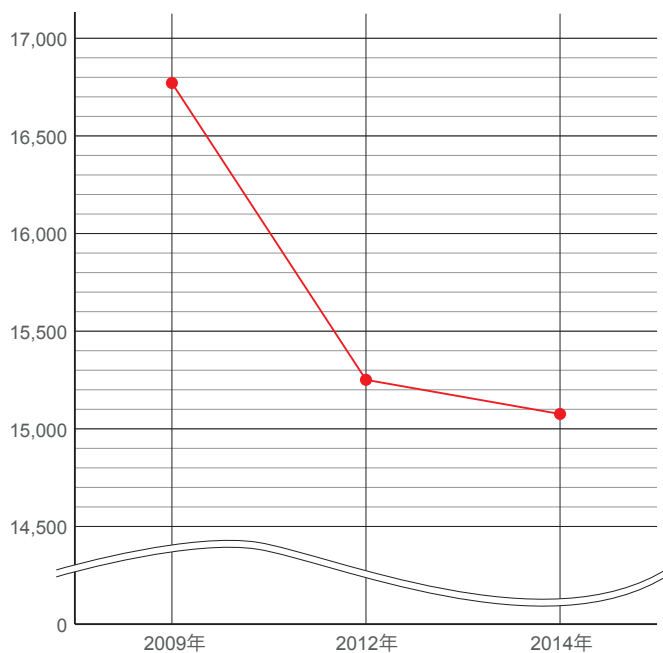


■金山町+只見町(不通区間)



会津17市町村の市町別の事業所2009年比推移

	2009年	2012年	2014年
会津若松市	7,400	6,792	6,753
会津美里町	929	834	834
会津坂下町	1,042	935	895
柳津町	217	191	191
三島町	128	102	95
金山町	183	175	169
只見町	322	289	284
喜多方市	2,852	2,627	2,533
下郷町	403	377	382
檜枝岐村	89	83	80
南会津町	1,257	1,147	1,131
北塩原村	307	220	255
西会津町	401	361	357
磐梯町	147	129	134
猪苗代町	898	803	801
湯川村	96	90	93
昭和村	100	96	89
17市町村全体	16,771	15,251	15,076



人口減少・高齢化の問題は、会津地域ひいては福島県全体の課題であり、今まさに地域が一丸となって有効な手立てを講じなければ地域衰退が加速する重要な転換期を迎えています。

出典

・人口構成・構成割合:地域経済分析システム(RESAS) | 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
 ・事業所2009年比推移:地域経済分析システム(RESAS) | 2014年(総務省「経済センサス-基礎調査」、総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」)
 ・人口推計:第7期介護保険事業(支援)計画における介護サービス見込み量推計データ(3月9日集計)

3 只見線の復旧

只見線は、地域の将来像を描き、地方創生を成し遂げるための起爆剤として必要不可欠な存在です。全線開通により日本一のローカル線として、生活・観光・教育・産業面で、多くの方々に利活用される新たな只見線を創り上げていかななくてはなりません。

そのため県と会津地域が一丸となって様々な課題を克服し、国とJR東日本の協力を得ながら上下分離方式により鉄道で復旧することを決定しました。

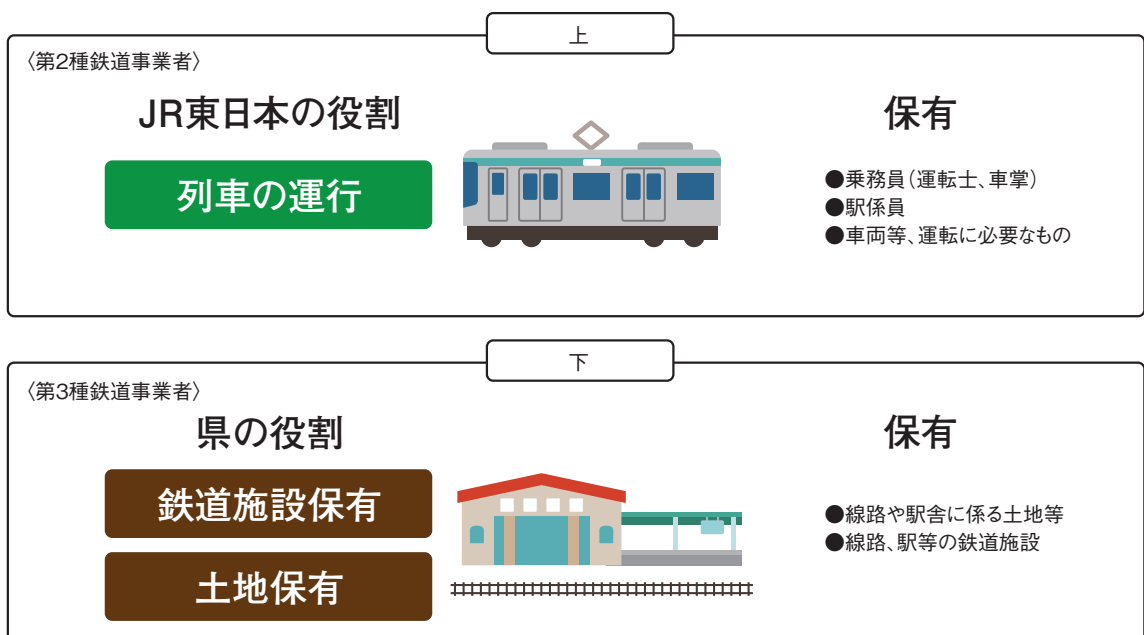


第五只見川橋りょう(金山町)※現在不通

上下分離方式

上下分離方式とは、会津川口・只見駅間について、不通区間の復旧後、県及び会津17市町村を代表して県が鉄道施設と敷地をJR東日本から譲り受けて保有し、その維持管理を行う方式です。

上を持つJR東日本は、列車の運行に係る乗務員、駅係員、車両等の運行に必要なものを保有管理し、下を持つ県は鉄道施設や土地を保有し、線路や駅舎等を管理します。



費用負担

只見線の復旧にあたり、約81億円の復旧費が発生し、地元負担が伴います。

また、上下分離方式では、県が鉄道施設等の維持管理を行うため、維持管理経費の負担が発生します。その経費は、2009年度ベースで約2.1億円かかると見込まれており、また、復旧後に大規模な災害が発生した場合には責任を持って、復旧し、その費用を負担する必要があります。



復旧スケジュール



将来にわたり負担が生じる上下分離方式を受け入れることは、大変重い決断です。

しかし、人口減少・高齢化が加速する会津地域にとって、今まさに有効な手立てを講じなければ、地域の衰退が加速してしまうという強い危機感から、地域のシンボルである只見線を復旧し、地域が一丸となって様々な課題を克服することを決定しました。

4 只見線復旧に向けた取組

これまで、県及び沿線の市町では、只見線の全線復旧に向けて、只見線の乗車を促すイベント、只見線を利用したツアー、広報活動、ランドオペレーターや海外ブロガーのモニターツアー等、様々な取組を行ってきました。

県・沿線市町のこれまでの取組(抜粋)	
福島県	<ul style="list-style-type: none"> ・只見線応援団を対象としたモニターツアー ・只見線おでかけガイドの作成 ・只見線PR動画の作成
会津若松市	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生を対象とした只見線復旧支援ツアーの実施 ・共助会主催の市職員とその家族を対象とした支援ツアーの実施
会津美里町	<ul style="list-style-type: none"> ・職員共助会による助成事業 ・各種イベント時の只見線利用の広報
会津坂下町	<ul style="list-style-type: none"> ・特別列車等運行時のおもてなし ・駅長おすすめの小さな旅 ・鉄道利用促進事業の活用
柳津町	<ul style="list-style-type: none"> ・誘客おもてなし事業 ・駅前さくらのライトアップ及び冬期のイルミネーション ・職員互助会による助成事業
三島町	<ul style="list-style-type: none"> ・第一只見川橋梁ビュースポットを活用したインバウンド事業 ・イベント時における二次交通事業 ・只見線利用促進事業
金山町	<ul style="list-style-type: none"> ・JR只見線復旧応援事業 ・只見線シンポジウムの開催 ・特別列車運行時のおもてなしイベントの開催(沿線市町村との協働)
只見町	<ul style="list-style-type: none"> ・只見線を利用した只見町の活性化計画の策定 ・「つながれつなぐれ只見線」応援事業 ・JR只見線を利用した只見ユネスコエコパークの共生・交流型観光推進事業
民間団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・只見線を利用したツアー造成 ・只見駅お誕生日会 ・只見線を活用した親子の体験活動



5 新たな利活用

これまでの取組が実を結び、ようやく只見線の復旧が決定しましたが、
本当の意味での復興は、まさに今がスタートラインです。

只見線は全国的にも大変厳しい利用状況であり、特に会津川口・只見駅間は、利用者数の減少が続いたことで、一層厳しい状況になっています。

全国の利用の少ない路線(2010年度の下位10路線)

JR線	(人/日)	JR線以外	(人/日)
山田線(JR東日本)	377	由利高原鉄道 わたらせ渓谷鐵道	○ 492
只見線(JR東日本)	370	東海交通事業	490
日高線(JR北海道)	329	三陸鉄道(北リアス線)	○ 480
名松線(JR東海)	291	津軽鉄道	455
予土線(JR四国)	248	錦川鉄道	○ 399
木次線(JR西日本)	240	長良川鉄道	○ 386
留萌線(JR北海道)	182	秋田内陸縦貫鉄道	○ 344
大糸線(JR西日本)	150	三陸鉄道(南リアス線)	○ 254
三江線(JR西日本)	66	紀州鉄道	242
岩泉線(JR東日本)	29 (※46)	阿佐海岸鉄道	○ 89

只見線不通区間(会津川口～只見)49

「○」は第三セクター

(参考) 会津鉄道756人/日、野岩鉄道708人/日

※岩泉線の鉄道時代の最後の年(2009年度)の平均通過人員は46人/日

これまでの取組

只見線復旧に向けた
機運の醸成

これからの取組＝新たなステージ

只見線の全線開通を見据え、
低迷している
利用者数を増やす。

+

只見線を活用した
会津地域の交流人口・
定住人口の拡大を図る。

↓

只見線を
起爆剤とした
地方創生

只見線の全線開通、そして、その先の新たなステージへ向かい、
これまで以上に地域が一丸となって、
只見線全線の利活用に取り組んでいくことが重要です。

1 目指すべき姿

只見線の全線復旧を起爆剤に地方創生を成し遂げ、日本一のローカル線として、生活・観光・教育・産業面で、多くの方々に利活用される新たな只見線を創り上げていくには、会津17市町村の住民・企業・行政が『目指すべき姿』を共有し、連携して取り組むことが重要です。

本計画では、『目指すべき姿』として、次のとおり定義します。

目指すべき姿

只見線が日本一の「地方創生路線」として生活路線、観光路線、教育路線、産業路線で利活用されるとともに、それらが循環し成長することで、何度でも乗りたい・訪れたいと思える路線・地域となる。



只見線の新たなステージに向けたチャレンジ

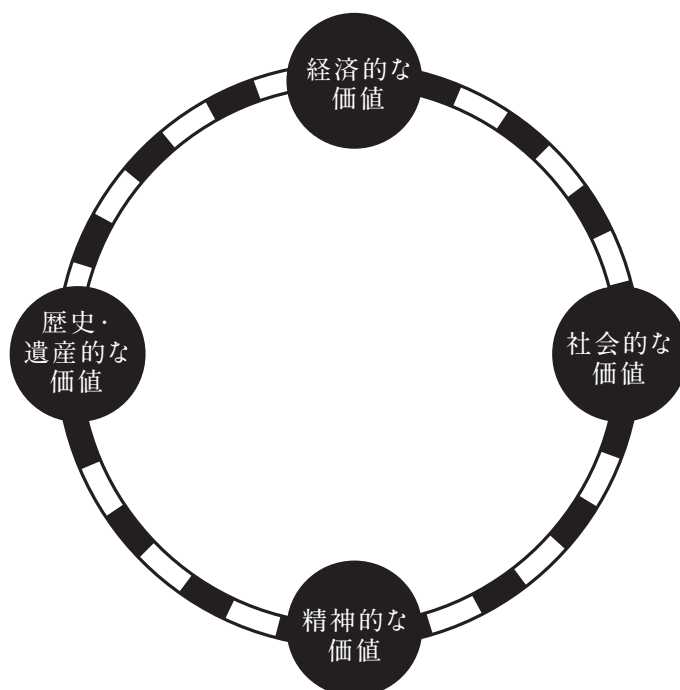
ローカル線の廃止が相次ぐ中で、全国的にも利用者数の少ない只見線の維持・再生に挑みます。

人口減少、高齢化が続く地域が、地方創生の実現に挑み、成功例として日本はもとより、世界へ発信します。



会津17市町村が一体となって、只見線を地方創生路線として、生活路線、観光路線、教育路線、産業路線で利活用することで、経済的、社会的、精神的、歴史・遺産的な価値を高め、只見線の持続的な存続や会津17市町村の地域活性化を図っていきます。

経済的な価値	只見線利用者数の増加、地元負担以上の経済効果
社会的な価値	過疎・人口減少など地域課題に対応する手段
精神的な価値	地域の象徴、地域を繋ぐ役割
歴史・遺産的な価値	電源開発の物質輸送のために敷設された歴史



2 コンセプト

目指すべき姿を実現するため、次をコンセプトとし、計画を推進します。



「ここにしかない、ヒト・モノ・コト・イロを活かし、地域の未来を切り拓く」

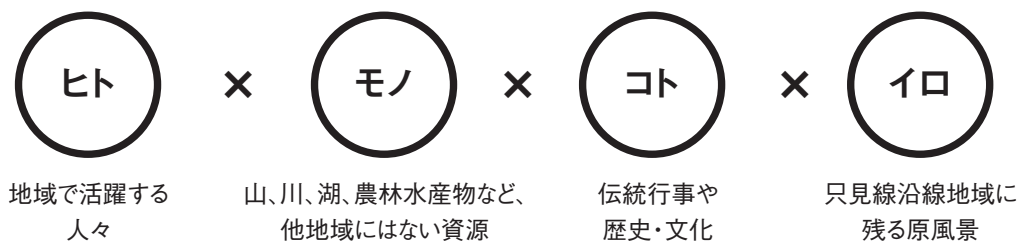
只見線135.2kmの挑戦

福島県会津若松駅から新潟県小出駅まで36駅、135.2km。
只見線全線復旧に向けた物語が動き出します。

沿線地域は、四季折々の美しい自然だけではなく、
受け継がれてきた歴史や文化があり、地域の繋がりや日々の豊かさなど、
訪れるたびに新しい気づきに出会える場所です。

この「ヒト」「モノ」「コト」「イロ」を最大限活かし、
会津17市町村の住民、企業、行政が手を取り合いながら、
未来を切り拓くための挑戦を行います。

(具体例)



3 3つの基本戦略

地域の最大の特色である「ヒト」「モノ」「コト」「イロ」は、まだ地域に埋もれたまま、十分活かされていません。

只見線の全線開通を見据え、あらためて「ヒト」「モノ」「コト」「イロ」を掘り起こし、磨き上げながら、只見線の利活用を推進していきます。具体的には、次の3つの戦略に重点を置き、会津17市町村が一体となって挑戦的なプロジェクトを積極的に実施します。



3 ① 魅力の創出と受入環境の整備



〈参考イメージ〉

(1) 地域資源を活かした魅力の創出

地域資源の再発見と魅力作りを行うことで、域外からの来訪者の満足度の向上や他地域との差別化を図ります。

- ① 地域資源の掘り起こしと磨き上げを行い、更なる活用を図る。
- ② 誰もが気兼ねなく利用できるよう、資源のコンテンツ化を図る。
- ③ 他地域との差別化を図り、オンリーワンを目指す。
- ④ 付加価値を高めるため、ストーリーを付与（可視化）する。

(2) 地域主体の受入体制整備

地元ガイドの養成や二次交通のインフラの整備を図るとともに、住民のマイレール意識の醸成を図ります。

- ① 二次交通や周遊交通ネットワークなど、交通インフラの整備を図る。
- ② 地元ガイドや現地の案内環境の整備を図る。
- ③ 住民のマイレール意識を醸成し、地域の機運を高める。

3 ② 一元的な情報発信と戦略的なプロモーション



〈参考イメージ〉

(1) 地域内外への一元的な情報発信

情報を集約、蓄積、発信するプラットフォームを構築し、地域内外へ迅速かつ効果的に情報を発信します。

- ①行政、企業、住民の情報の受け皿を作り、地域の魅力を全国へPRする。
- ②地域の連携を強化し、広域的かつ立体的なネットワークの構築を図る。
- ③地域がチャレンジする姿を発信、全国へ共感の輪を広げる。

(2) 戦略的なプロモーション

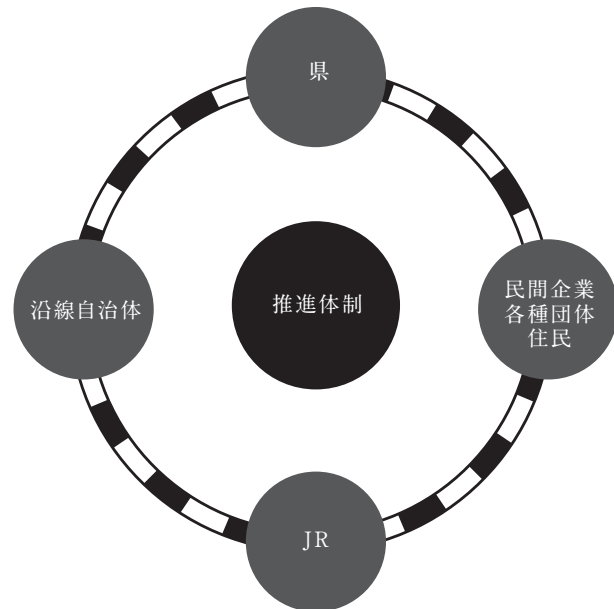
「ターゲットの設定」と「ターゲット別のアプローチ」など、マーケティングのフレームワークに基づき、的確なプロモーションを行います。

- ①地域別や年齢別、趣味・嗜好別など、目的に応じたターゲットを設定する。
- ②ターゲット別の効果的かつ的確なアプローチ手法を設定する。
- ③影響力が大きい人を起用し、新たなファン層を拡大する。
- ④「只見線全線開通」に対する注目を最大限活用する。

3 ③ 地域間連携と推進体制の構築

(1) 地域主体の推進体制の構築

只見線利活用プロジェクトチームを土台として、新たに只見線利活用プロジェクト推進チームを設立し、各主体の連携を図りながら会津17市町村が一体となってプロジェクトを推進します。また、新たに地域コーディネート機能を構築し、官民の取組の一元化を目指します。



(2) 各主体の期待される役割

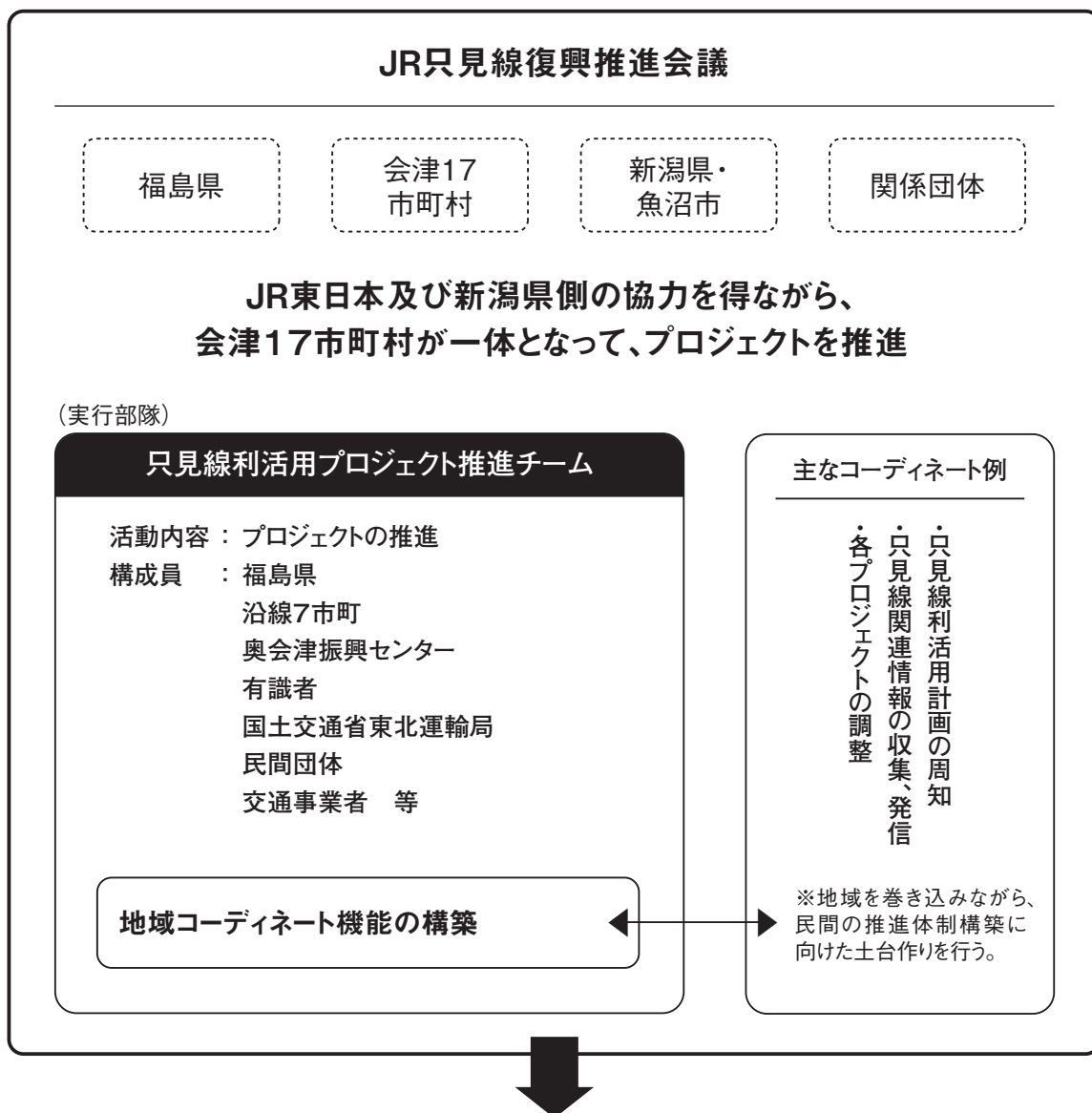
只見線利活用プロジェクト推進チームを中心に、住民・企業・行政などが共通認識を持ち、それぞれの立場からその役割を果たすことが必要となります。

主 体	期待される役割
県	広報（プロモーション）、土台作り
市町村 公的団体	各地域の魅力作り（掘り起こし、棚卸し）、受入体制の整備（二次交通、案内看板）、駅の美化活動・魅力向上
住民 住民団体 民間事業者	只見線の利活用（只見線に乗る、ツアー・イベントの実施、旅行商品・特産品開発、ガイド養成）、プロジェクトへの参画・協力・支援等
JR	列車の運行、地域の宣伝、地域への誘客、地域の取組への支援等

※公的団体（観光協会、商工会、各種組合等）

民間事業者（観光事業者、交通事業者、商工業者、農業者等）

当面の推進体制



只見線全線開通を見据えた新たな推進体制

既存の地域活性化推進団体の活用も視野に入れ、
2018年度中に、県、市町村、民間団体、交通事業者など、
官民が一体となった新たな推進体制の構築を図る。

1 魅力の創出と受入環境の整備 観光路線

実施場所
沿線地域

1 目指せ海の五能線、山の只見線プロジェクト



風っこ只見線紅葉号

背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 只見線沿線地域には、食・自然・風景・体験・歴史・文化など、独自性の高い資源が多くあるものの、十分に活かされていない。 ・ 埋もれている資源が多くあることから、各地域の資源を掘り起こし、磨き上げながら、各地域の魅力を改めて創出する必要がある。 ・ 資源の連携を強化し、「点」で存在する資源を「線」に、さらには「面」へと広げ、地域一丸となってPRしていくことが重要となる。
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 五能線の実績を参考に、地域の資源やおもてなしをパッケージ化し、楽しみ方を分かりやすくしたサービスを造成することで、只見線利用者数の増加を図る。 ・ 将来的には海の五能線に並ぶ、山の只見線として、全国はもとより、世界に注目されるエリアとなることを目指す。
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域が主体となり、車内や停車駅で地酒やご当地の食の提供、振舞いや伝統芸能の披露など、会津地域ならではの、ものづくりや伝統文化の体験をセットにした企画列車を運行する。 ・ 地域の機運を高めながら、企画列車の需要を拡大することで、将来的にはJR五能線リゾートしらかみのように景勝地を巡り、列車内で地域の自然や文化に触れることができる、只見線ならではの企画列車の定期運行を目指す。

プロジェクトを成功させるために必要なこと	
県	企画列車の安定的な運行(利用者の確保、広報手段の確立、低コスト化) ガイドブックを通じた企画列車のパッケージ化、魅力発信
市町村 公的団体	全国に誇れる魅力の創出(例、五所川原の立佞武多) 駅を基点とした周遊ルートの確立
住民 民間事業者 住民団体	プロジェクトへの積極的な参画 企画列車を活用した旅行商品の造成

具体的アクション					
	2018	2019	2020	2021	2022
県	試験的運行(徐々に実践回数を増やす)				
	企画列車ガイドブックの作成				
市町村 公的団体	地域の魅力創出 リスト化	ガイド育成	キラーコンテンツ化	周遊ルートの整備	
	駅・列車内での企画		多角化		
			駅の魅力向上		
住民 民間事業者 住民団体	企画列車の協力 ガイド・広報協力	連動企画の実施	旅行商品の造成		
					企画列車運行
ターゲット	●インバウンド ●首都圏のシニア層 ※企画の内容に応じてターゲットを設定				
KPI (成果指標)	企画列車年間利用者数 現状値:新 → 目標値:3,600人(2022)				
KGI (最終目標)	企画列車の定期運行				

参考データ (市場調査)	<p>[只見線で観光列車が走る場合の乗車意向]</p> <p>只見線で観光列車が走る場合には是非乗ってみたい観光列車"展望窓から雄大な山々、河川の景色、四季を体感できる"観光列車(35.8%)が最も多い。特にシニア層で40.2%と多い。</p> <p>※調査方法 : インターネット調査 調査対象: 福島県および首都圏に居住している20歳以上の男女 サンプル数: 1,600S 調査期間: 平成30年1月25日(木)～1月29日(月)</p>
-----------------	---

1 魅力の創出と受入環境の整備 観光路線

実施場所

2 奥会津景観整備プロジェクト









金山町・只見町・三島町・柳津町



第三只見川橋りょう(三島町)

背景	<ul style="list-style-type: none">・ 只見川と橋りょうが織り成す風景は、世界的にも注目が高まっている一方で、その大部分を杉や雑木が阻害している。・ 特に奥会津地域は、国道252号線に並行して、只見線や只見川等の美しい景観が続いており、ビュースポットを整備することで新たな観光拠点となる。・ 只見川に並行した廃道敷が未活用のまま残っているなど、地域には磨き上げが可能な資源が多く存在する。
目的	<ul style="list-style-type: none">・ 奥会津の原風景を守り、地域の更なる磨き上げを行うため、杉の伐採によるビュースポットの整備や、廃道を活かした自然散策路の整備を行い、奥会津の美しい景観を形成する。
概要	<ul style="list-style-type: none">・ 奥会津の風景を阻害している杉や雑木を伐採し、写真撮影スポットとなる視点場(ポケットパーク等)を整備することで、車窓や沿線の絶景ポイントを創出する。・ 落葉広葉樹の植樹や、耕作放棄地・森林の荒廃対策など、奥会津の里山形成も含めた、魅力ある風景を形成する。・ 廃道を活用した自然散策路を整備し、新たな観光拠点を創出する。

プロジェクトを成功させるために必要なこと	
県	県管理道路や河川敷内の景観支障木の伐採 ポケットパーク整備、散策路などの整備効果を高めるための情報発信
市町村 公的団体	伐採計画に基づく効果的な伐採 景観支障木の伐採、ビュースポット整備、林業関係団体との連携
民間事業者 住民団体 住民	伐採木材の利活用 景観支障木の伐採協力、草刈り等も含めた里山形成への参画

具体的アクション					
	2018	2019	2020	2021	2022
県		景観支障木の伐採 			
		案内看板の設置情報発信 			
市町村 公的団体	伐採・植樹箇所の調査 	景観支障木の伐採・植樹 			
		里山形成(本来の魅力ある風景) 			
			自然散策路整備 		
民間事業者 住民団体 住民		伐採・植樹の協力、木材の利活用 			
		里山形成(できることから) 			
ターゲット	●鉄道ファン(「撮り鉄」)をメインターゲットにしつつ、旅行者が気兼ねなく楽しめる環境整備を行う。				
KPI (成果指標)	杉の伐採箇所数 現状値:新 → 目標値:10箇所(2022)				
KGI (最終目標)	ビュースポット・ポケットパークの整備 自然散策路の整備				

参考データ (市場調査)	<p>[旅行時の写真撮影意向]</p> <p>旅行時の写真撮影「重視している」人(46.8%)は半数近く。特に20代で「重視している」人(60.8%)が多い。</p> <p>※調査方法 : インターネット調査 調査対象: 福島県および首都圏に居住している20歳以上の男女 サンプル数: 1,600S 調査期間: 平成30年1月25日(木)~1月29日(月)</p>
-----------------	--

1 魅力の創出と受入環境の整備 教育路線

3 只見線学習列車プロジェクト

実施場所
沿線地域



只見線学習列車の様子

背景	<ul style="list-style-type: none">・ 只見線沿線地域には、ダム・自然・暮らし・農業・食・体験など、数多くの教育資源が存在する。・ 未来を担う子どもたちに只見線と沿線地域の思い出を残してもらうことで、中長期的な利用促進に繋がる。・ 震災以降、教育旅行が低迷しつつある会津地域にとって、学習列車が呼び水になるとともに、既存の教育プログラムとの相乗効果が図られる。
目的	<ul style="list-style-type: none">・ 教育旅行等で訪れる小・中学生をメインターゲットに、会津・奥会津に人が流れる仕組みを作り、全国からの教育旅行（只見線利用者）を呼び込む。・ 学びの場としてのブランドを確立しながら、学習列車の需要を拡大することで、将来的には日本初の専用車両による運行を目指す。
概要	<ul style="list-style-type: none">・ 沿線地域の本物の景色・教育資源を活用しながら、駅や列車内で、環境教育や体験学習等を提供する。・ 既存の教育プログラムや小中学生を対象としたツアーとの連携を図り、活きた知識の習得と、郷土愛の心を育む。・ 様々な学びのメニューを造成し、地域資源を活かしたニューツーリズムと組み合わせることで、学習列車の需要を拡大する。

プロジェクトを成功させるために必要なこと	
県	学習列車の安定的な運行(広報手段の確立、低コスト化) 外部資金を活用した補助制度の創設(民間企業の巻き込み)
市町村 公的団体	地域資源を活かした教育プログラムの開発、姉妹都市など交流地域へのPR(誘致) 宿泊施設や見学施設などの受入環境整備(アレルギー対策等)
民間事業者 住民団体 住民	プロジェクトへの積極的な参画 農家民泊の推進

具体的アクション					
	2018	2019	2020	2021	2022
県	モデル校による実施(徐々に参加校を増やす)				
	パンフレット作成	ガイドブック作成			
		民間企業巻き込み			
市町村 公的団体	教育プログラム開発				
	リスト化	講師養成	メニュー化	キラーコンテンツ化	
		市・町内学校へ参加呼びかけ	姉妹都市等へのPR		
		受入環境整備			
民間事業者 住民団体 住民	学習列車の協力				
	講師広報協力	連動企画の実施	企業等の巻き込み		
				学習列車一部運行・営業	

ターゲット	●小中学生の教育旅行
KPI (成果指標)	学習列車参加校 現状値:1校(2017) → 目標値:60校(2022)
KGI (最終目標)	学習列車の持続的な運行

参考データ (市場調査)	<p>[子どもに体験させたい教育旅行]</p> <p>子どもに体験させたい教育旅行は「自然に触れる体験」(54.5%)が最も多い。 また、「伝統文化に触れる体験」(45.0%)、「歴史に触れる体験」(44.1%)も特に多い。</p> <p>※調査方法 : インターネット調査 調査対象: 福島県および首都圏に居住している20歳以上の男女 サンプル数: 1,600S 調査期間: 平成30年1月25日(木)~1月29日(月)</p>
-----------------	---

1 魅力の創出と受入体制の整備 教育路線

4 奥会津サテライトキャンパス整備プロジェクト










実施場所
沿線地域



三島町「清匠庵」

背景	<ul style="list-style-type: none">・ 人口減少・高齢化が進行するなか、地域に活力をもたらすには、若者が地域に流入する仕組みを作ることが重要である。・ 特に奥会津地域は、空き家が多く存在し、空き家対策は喫緊の課題となっている。若者が多く訪れる場所を作り、住民と若者が交流する場の創出や、只見線の利用促進を図ることで、地域に活気が生まれる。
目的	<ul style="list-style-type: none">・ 古民家を活用したサテライトキャンパスを開設し、公開講座や学生のセミナーハウス等で活用するなど、地域内外から多くの人財が集まる拠点施設を整備する。
概要	<ul style="list-style-type: none">・ 古民家を活用したサテライトキャンパスを開設し、公開講座や学生のセミナーハウス、簡易宿泊所など、地域の拠点となる場を創出する。・ 県立高校の特長化や教育機関、研究所等の誘致も視野に、学びの場としての奥会津ブランドの向上を図り、交流人口、定住人口の拡大を図る。・ 「首都圏大学生等による奥会津プロジェクト」などの大学生交流活動を発展させ、より多くの大学生等を奥会津地域に呼び込む。

プロジェクトを成功させるために必要なこと	
県	サテライトキャンパスの実現に向けた支援
市町村 公的団体	継続的に運営するための維持管理 学びの場としての機運醸成
住民 民間事業者 住民団体	サテライトキャンパスの実現に向けた調整 大学・企業の巻き込み・誘致

具体的アクション					
	2018	2019	2020	2021	2022
県	サテライトキャンパスの実現に向けた支援 				
市町村 公的団体	調査協力 	事業協力  機運の醸成 			維持管理 
住民 民間事業者 住民団体	ニーズの把握 	実現可能性調査 	詳細設計 	空き家等の改修 	
ターゲット	●県内外の学生				
KPI (成果指標)	大学生等交流活動参加者数 現状値:45人(2017) → 目標値:1,000人(2022)				
KGI (最終目標)	サテライトキャンパスの新設				

参考データ	<p>[UJターン意向]</p> <p>・都市圏に居住している地方出身の大学生男女のUJターン意向率は46.6%。</p> <p>※株式会社サーベイリサーチセンター自主調査「地方創生」[大学生・第二新卒・社会人におけるUJターンに対する意識調査]</p>
-------	---

1 魅力の創出と受入環境の整備 生活路線

実施場所

5 みんなの只見線プロジェクト ～只見線に乗って～

沿線地域



只見駅54歳の誕生日イベント(只見町)

背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 只見線利用者数の増加を図るには、住民の通勤・通学などの生活利用を促進することが最も効果的である。 ・ 只見線の全線開通を見据え、地域の機運を高め、地域一丸となって只見線の利活用に取り組む必要がある。 ・ 只見線沿線地域には、只見線を支援する様々な団体があり、それぞれの団体が活動しやすい環境を作ることで、継続的な利活用が図られる。
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の機運を高め、住民のマイレール意識を醸成することで、只見線の利用促進を図るとともに、来訪者に対するおもてなしの心を醸成する。 [全住民参加型の只見線利活用]
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民による只見線の利用促進を図るため、運賃助成、只見線関連イベント、啓発事業などを行い、只見線の利用機会を創出する。 ・ 行政と地域が連携しながら、できるだけ多くの企業・団体・住民を巻き込み、マイレール意識を醸成するとともに、おもてなしエリアとしての認知度を高めていく。 ・ マイレールポイント制度の導入も視野に、只見線の付加価値を高め、利用を促進する。 ・ 多くの県民が只見線に親しむ機会をつくるため、「只見線の日」制定や、1年に1回只見線に乗るという県民運動の実現を目指す。

プロジェクトを成功させるために必要なこと	
県	只見線応援団の活動を強化
市町村 公的団体	只見線利活用に関する企業・団体・住民の巻き込み 住民による只見線の利用促進
住民 民間事業者 住民団体	定期的な只見線利用 只見線利活用に関する各種活動

具体的アクション					
	2018	2019	2020	2021	2022
県	地域コーディネート機能の構築 				
	只見線応援団の有志者によるプロジェクトの実施 				
市町村 公的団体	運賃助成、イベント、啓発事業 				
	駅周辺の魅力創出 				
住民 民間事業者 住民団体	只見線利活用に関する各種活動 				
	只見線の乗車 				
ターゲット	福島県民				
KPI (成果指標)	住民、団体、企業等による只見線利活用企画数 現状値:新※ → 目標値:100本(2022) ※現在でも多くの団体・住民等が只見線の利活用のための企画を実施しており、今後、利活用企画数の把握を行いながら、連携を図っていく				
KGI (最終目標)	全住民参加型の利活用促進・受入体制整備、ダイヤ見直し				

参考データ (事業者調査)	<p>[従業員の只見線利用状況]</p> <p>・「利用している従業員はいない」(79.4%)が最も多く、次いで「1割未満」(10.3%)が多い。</p> <p>[重点プロジェクトへの参加意向]・「参加したい」(30.9%)、「どちらともいえない」(49.5%)</p> <p>※調査方法：郵送調査等 調査対象：只見線沿線市町に登記のある事業者 サンプル数：約300票配付(うち127票回収) 調査期間：平成30年2月23日(金)～平成30年3月9日(金)</p>
------------------	---

1 魅力の創出と受入環境の整備 産業路線

6 只見線産業育成プロジェクト

実施場所
沿線地域



米焼酎ねっか只見線特別ラベル

背景	<ul style="list-style-type: none"> 観光、教育を切り口に交流人口の増加を図っていくことと併行して、地域ならではの新しい産業の創出・育成を図ることにより、相乗効果が生まれ、正の循環が発生する。
目的	<ul style="list-style-type: none"> 只見線を活用した地域ならではの産業を育成し、各プロジェクトと連動しながら相乗効果をもたらすことで、住民が活躍できる場を創出するとともに、沿線地域への移住・定住人口の拡大を目指す。
概要	<ul style="list-style-type: none"> 各プロジェクトの成果を最大限地域経済に波及させるため、只見線関連の産業を育成することで、ガイドや講師など住民がこれまで以上に活躍できる場を創出する。 沿線地域の伝統、自然、食、文化などを活かし、只見線関連商品やサービスの開発・復活を行う。 クラウドファンディングも活用しながら、全国へ共感の輪を広げるとともに、集めた資金を各種プロジェクトに役立てる。

プロジェクトを成功させるために必要なこと	
県	各プロジェクトにおける連携
市町村 公的団体	住民が活躍できる場の創出 地域資源の掘り起こし
住民 民間事業者 住民団体	只見線関連商品・サービス開発

具体的アクション						
	2018	2019	2020	2021	2022	
県		クラウドファンディングの実施				
市町村 公的団体	只見線関連の商品開発・復活	駅弁の開発・講師・ガイドの養成（企画列車用）				
民間事業者 住民団体 住民						
ターゲット	●地域住民：高齢者（伝統、歴史、技能の継承）					
KPI （成果指標）	只見線関連商品開発数 現状値：新 → 目標値：30品（2022）					
KGI （最終目標）	地域経済の活性化・住民が活躍できる場の創出					

参考データ （市場調査）	<p>【お土産等物産購入費】「2000～4000円未満」（26.4％）が最も多い。</p> <p>【旅行先検討時に重視する項目（地域の名産品、酒、伝統工芸品）】</p> <p>「地域の名産品」（15.2％）、「酒」（6.2％）、「伝統工芸品」（2.4％）である。</p> <p>※調査方法：インターネット調査 調査対象：福島県および首都圏に居住している20歳以上の男女 サンプル数：1,600S 調査期間：平成30年1月25日（木）～1月29日（月）</p>
-----------------	--

1 魅力の創出と受入環境の整備 ■■■

7 只見線二次交通整備プロジェクト

実施場所






沿線地域



只見駅前出発のバス

背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 只見線利用者数の増加及び沿線地域の交流人口の拡大を図るには、駅と接続した二次交通の拡充が必要であり、只見線と沿線の観光資源とを繋ぐ交通手段を確保することで、地域の周遊が可能になる。 ・ 地域に訪れる人の多くが自動車利用者であるため、自動車利用者でも只見線に乗れる仕組みを作ることで、只見線の利用促進が図られる。
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二次交通整備や駐車場対策により、只見線の利便性を向上させ、生活利用、観光利用の両面での利用促進を図る。 ・ 沿線の観光資源を磨き上げ、只見線と繋ぎ合せることで、駅を基軸とした周遊ルートを確立する。
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ デマンドバスやタクシー、周遊バスなど、駅と接続した二次交通事業を拡充し、地域住民や観光客、交通弱者などが利用できる公共交通網を構築する。 ・ 只見線及び沿線の観光資源の魅力を高め、それらをバス・タクシー等の二次交通で結びつけることで、相乗効果を生み出すとともに、 ・ 旅行者や住民が気兼ねなく地域を周遊できる仕組みを作る。

プロジェクトを成功させるために必要なこと	
県	広域的な路線の運行支援 二次交通整備に向けた支援
市町村 公的団体	公共交通網の整備 地域の魅力創出(駅を基軸とした周遊ルートの確立)
民間事業者 住民団体 住民	観光事業者:観光施設の受入環境整備 交通事業者:継続的な運行(将来的な自走)

具体的アクション					
	2018	2019	2020	2021	2022
県	二次交通整備に向けた支援 				
	広域路線の運行支援(実証実験) 				
市町村 公的団体	二次交通事業の実施 				
	周遊化促進 				
民間事業者 住民団体 住民	受入環境整備 				
ターゲット	●地域住民、旅行者(只見線利用者)				
KPI (成果指標)	只見線駅と接続する新規路線数 現状値:新 → 目標値:6路線(2022)				
KGI (最終目標)	只見線を核とした公共交通網の構築				

参考データ (市場調査)	<p>[公共交通機関を利用した移動時間の範囲]</p> <p>日帰り旅行では「1時間以上2時間未満」(28.5%)が最も多く、宿泊旅行では「4時間以上」(38.4%)が最も多い。</p> <p>※調査方法 : インターネット調査 調査対象:福島県および首都圏に居住している20歳以上の男女 サンプル数:1,600S 調査期間:平成30年1月25日(木)~1月29日(月)</p>
-----------------	---

2 一元的な情報発信と戦略的なプロモーション

8 只見線魅力発信プロジェクト

実施場所

沿線地域



絶景列車、只見線！奥会津魅力満載キャンペーン記者会見

背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 只見線の復旧に向けた注目が高まっているものの、只見線の全国的な認知度は2割にも満たない状況であり、情報発信には課題がある。 ・ 東北のインバウンド増加に向けて、只見線の絶景が注目されている一方、訪日外国人に対して発信する手段が確立されていない。
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 只見線のプロモーションを強化し、地域の魅力を全国へPRするとともに、地域がチャレンジする姿を発信し、共感の輪を広げる。
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報発信の体制を強化しながら、ウェブページ、SNS、テレビなど様々な媒体によるプロモーションを行い、只見線の認知度を向上させるとともに、只見線の利用者増加に繋げる。 ・ 情報を集約、蓄積、発信する受け皿を作り、効果的に魅力を届ける。 ・ 各プロジェクトで地域がチャレンジする姿を記録し、発信することで、全国へ共感の輪を広げる。

プロジェクトを成功させるために必要なこと	
県	住民自らが魅力を発信できる環境・仕組み作り
市町 村 公的 団体	広報協力
住民 民間 事業者 団体	観光素材の提供、広報協力(積極的な発信) フィルムコミッション整備

具体的アクション					
	2018	2019	2020	2021	2022
県	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を集約、蓄積、発信するウェブページ・SNSの開設 ・地域の様々なシーンを動画で記録し、プロモーションビデオを作成 ・住民自らが魅力を発信できる環境・仕組み作り 				
	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な機会を捉えたプロモーション活動 				
市町 村 公的 団体	広報協力・魅力発信				
住民 民間 事業者 団体	観光素材の提供、広報協力				
		只見線フィルムコミッション整備			
ターゲット	●企画ごとにターゲット設定				
KPI (成果指標)	首都圏の只見線認知度 現状値:23.9%(2017) → 目標値:40%(2022) 外国人宿泊旅行者数(奥会津地域)※ 現状値:1,271人(2017) → 目標値:4,800人 ※外国人宿泊旅行者数のほか、今後は外国人観光客数も指標とするため、会津宮下駅や会津川口駅等で実施している国別来訪者数の調査等も参考に、外国人観光客数の把握方法について検討する。				
KGI (最終目標)	全国から注目を集め、只見線に乗ってもらふ。				
参考データ (市場調査)	[只見線の認知度]・只見線の県内の認知度は61.3%、首都圏の認知度は23.9%である。 [只見線乗車意向]、[只見線乗車意向(説明後)]の比較 ・只見線の乗車意向は只見線の概要説明後に15ポイント高くなった。 ※調査方法：インターネット調査 調査対象：福島県および首都圏に居住している20歳以上の男女 サンプル数：1,600S 調査期間：平成30年1月25日(木)～1月29日(月)				

3 地域間連携と推進体制の構築 ■■■■

9 只見線利活用プラットフォーム構築プロジェクト







実施場所
沿線地域



只見線応援団

背景	<ul style="list-style-type: none">・各地域がそれぞれ積極的に只見線の利活用に取り組んでいるものの、個別の取組では限界がある。・地域の旗振り役が存在せず、取組のコンセプトが一貫していないものが多い。・全国で6万人を超える只見線応援団の協力を得ながら、地域内外の機運を高めることで、更なる利活用が図られる。
目的	<ul style="list-style-type: none">・地域のプラットフォームである住民主体の推進体制を構築し、行政の推進体制と協働することで、官民の活動を一元化する。
概要	<ul style="list-style-type: none">・只見線の復旧及び利活用に対する意識が地域や個別属性ごとに異なっている状況を踏まえ、只見線沿線という帰属意識の醸成を図り、継続性のある組織を作るため、地域コーディネート機能を構築し地域を一つにする。・地域の旗振り役を明確にしたうえで、只見線応援団の活動を活発化させるとともに、各団体が活動しやすい環境を整備する。・地域を積極的に巻き込み、機運の醸成を図るとともに、地域一丸となって只見線の利活用に取り組む。

プロジェクトを成功させるために必要なこと	
県	只見線応援団活動の活発化 地域コーディネート機能の構築による機運の醸成
市町村 公的団体	住民団体の活動支援
住民 民間事業者 住民団体	只見線の積極的な利活用 各プロジェクトへの参画

具体的アクション					
	2018	2019	2020	2021	2022
県	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネート機能の構築 ・只見線利活用計画の周知 ・地域及び只見線応援団に対する情報発信の強化 				
市町村 公的団体	地域コーディネート活動の支援 	民間団体の活動支援 			
	住民への参画呼びかけ 				
住民 民間事業者 住民団体	只見線の利活用(只見線応援団の活用) 		住民主体の推進体制構築 		
ターゲット	●地域住民				
KPI (成果指標)	只見線応援団企画参加者数※ 現状値:新 → 目標値:1,000人(2022) ※只見線応援団主催の企画等により、全国の只見線応援団員に参加いただく。				
KGI (最終目標)	住民主体の推進体制構築				

参考データ (事業者調査)	<p>[地域を魅力的にする活動等] ・「行っている」(39.2%)、「行っていない」(48.5%)</p> <p>[只見線の方向性や9つのプロジェクト] ・「賛成」と「やや賛成」の合計は、約62.6%である。</p> <p>※調査方法：郵送調査等 サンプル数：約300票配付(うち127票回収)</p> <p>調査対象：只見線沿線市町に登記のある事業者 調査期間：平成30年2月23日(金)～平成30年3月9日(金)</p>
------------------	--

4 重点プロジェクトの全体像と数値目標



魅力の創出と受入環境の整備

観光路線

目指せ海の五能線、山の只見線プロジェクト

企画列車年間利用者数 現状値:新 → 目標値:3,600人(2022)



奥会津景観整備プロジェクト

杉の伐採箇所数 現状値:新 → 目標値:10箇所(2022)



教育路線

只見線学習列車プロジェクト

学習列車参加校 現状値:1校(2017) → 目標値:60校(2022)



奥会津サテライトキャンパス整備プロジェクト

大学生等交流活動参加者数

現状値:45人(2017) → 目標値:1,000人(2022)



一元的な情報発信と 戦略的なプロモーション



只見線魅力発信プロジェクト

首都圏の只見線認知度 現状値:23.9%(2017) → 目標値:40%(2022)

外国人宿泊旅行者数(奥会津地域) 現状値:1,271人(2017) → 目標値:4,800人(2022)



数値目標	只見線利用者数 (平均通過人員)	会津川口駅～只見駅	現状 37／日(2016)	2022年度 100／日
		会津若松駅～小出駅	現状 304／日(2016)	2022年度 350／日
	※平均通過人員…1日1kmあたりの利用者数 ※豪雨災害以前の会津川口駅～只見駅間の利用者数は49／日(2010)			

生活路線

みんなの只見線プロジェクト

住民、団体、企業等による只見線利活用企画数
現状値:新 → 目標値:100本(2022)



産業路線

只見線産業育成プロジェクト

只見線関連商品開発数 現状値:新 → 目標値:30品(2022)



只見線二次交通整備プロジェクト

只見線駅と接続する新規路線数 現状値:新 → 目標値:6路線(2022)



地域間連携と推進体制の構築



只見線利活用プラットフォーム構築プロジェクト

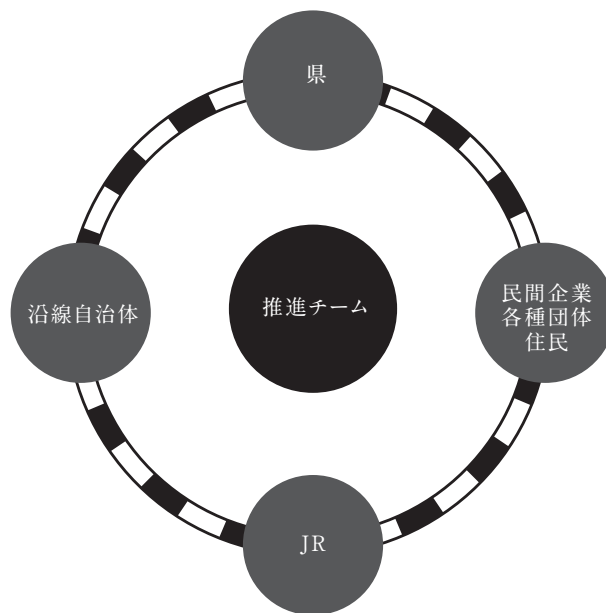
只見線応援団企画参加者数 現状値:新 → 目標値:1,000人(2022)



1 推進体制及び財源

各プロジェクトは当面、県、市町村、民間団体等のそれぞれの事業として実施するものの、JR只見線復興推進会議により、新潟県側の協力も得ながら関係者間の連携を強化するとともに、第2章で設定した只見線利活用プロジェクト推進チームを実行部隊として、総合的かつ効果的にプロジェクトを推進します。

また、ふるさと納税やクラウドファンディングなど、只見線の復旧に心を寄せる全国の支援者や各プロジェクトに共感する方々の協力もいただきながら、事業を実施していきます。



2 位置づけ

本計画は、只見線利活用プロジェクト推進チームの協議による独自施策を推進するとともに、行政、企業及び住民等の連携を図るための行動指針とします。

そのため、計画策定後においても、只見線利活用プロジェクト推進チームによりプロジェクトの進行管理を行い、新潟県側の協力も得ながら継続的な改善を図ります。

3 計画の推進期間

平成30年度を初年度とし、平成34年度までの5年間を計画期間とします。

只見線の全線開通を絶好の機会として捉え、積極的にプロジェクトを推進するとともに、継続的な利活用を図るため、事業の自走化を目指します。

4 アクションプログラムの策定

只見線利活用計画で位置付けた各プロジェクトについて、より実効性を高めるため、具体的な事業案を盛り込んだアクションプログラムを策定し、毎年度見直しを行いながら、各プロジェクトを推進します。

5 目標達成状況の評価基準

只見線利活用プロジェクト推進チームが定期的に連絡会議を実施し、事業の進捗確認や目標数値の達成状況など、プロジェクトの進行管理を行います。

評価内容例
KPI達成状況
KPIのKGIへの寄与度について考察
KPIの再設定
その他定性的な成果 ・事業効果の発現状況 ・外部要因の影響 ・目標達成 ・未達成の要因 ・問題点の把握

6 戦略の再検討

継続的にPDCAサイクルによる効果検証を行い、時勢や世論の状況、事業の進捗に応じてプロジェクトの再検討を行います。

再検討項目例
個別事業の拡大縮小、継続、中止、延期
各段階で実施する内容と時期
個別事業の実施状況を踏まえた戦略の方向性

只見線利活用計画

編集・発行

只見線利活用プロジェクトチーム

福島県、会津若松市、会津美里町、会津坂下町

柳津町、三島町、金山町、只見町、只見川電源流域振興協議会

只見町観光まちづくり協会

酒井 治子

会津大学短期大学部 産業情報学科

高橋 延昌

特定非営利活動法人素材広場

横田 純子

ふくしま自治研修センター

吉岡 正彦

国土交通省東北運輸局(オブザーバー)

事務局 福島県生活環境部生活交通課

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号

TEL 024(521)7158

【平成29年度電源立地地域対策交付金事業】

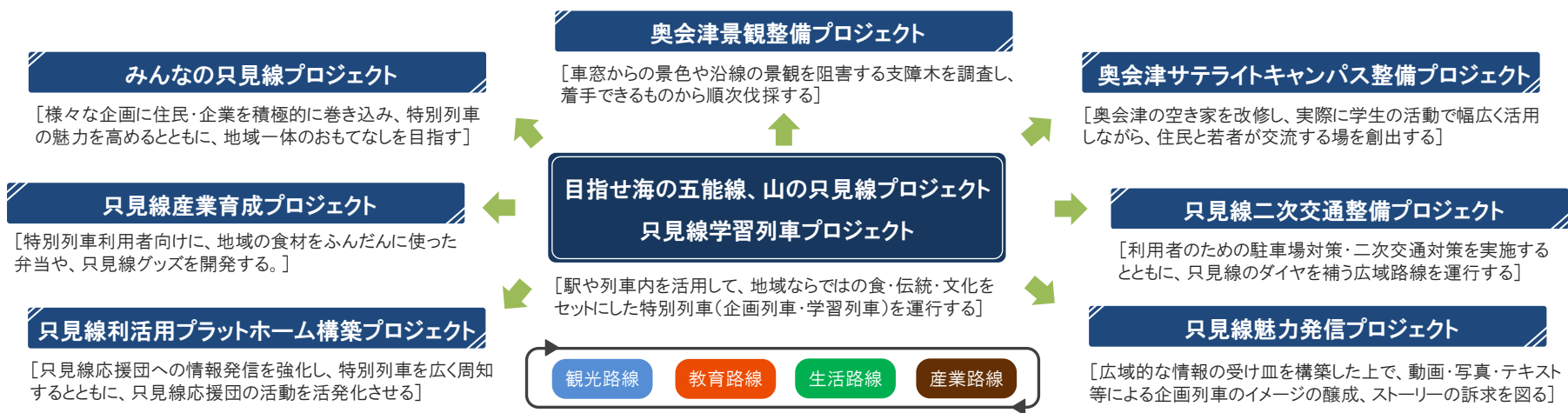


- ・只見線利活用計画で位置付けた各プロジェクトについて、より実効性を高めるため、具体的な事業案を盛り込んだアクションプログラムを策定し、毎年度見直しを行いながら、各プロジェクトの進行管理を行う。
- ・只見線の全線再開通に向けて、只見線への関心が高まりつつあるが、只見線利用者数は依然低いままであり、関心(情報のきっかけ)から実際の利用につなげる戦略的な事業展開が求められる。

2018年度取組方針

2018年度は只見線利活用計画の初年度として、今後の各プロジェクトの成否を占う重要な年度であり、関係者間の連携を一層強化し、総合的かつ効果的に事業を推進する。

- 1 取組の一元化を図るため、「目指せ海の五能線、山の只見線プロジェクト」及び「只見線学習列車プロジェクト」を基軸にして、発展的に事業を展開し、相乗効果をもたらせながら各プロジェクトを推進する。(イメージ下図)
- 2 関係者間の連携を一層強化し、新潟県側の協力も得ながら、会津17市町村が一体となって取り組むとともに、様々な企画に住民、企業、団体等を積極的に巻き込み、オール会津で「地方創生路線」の実現を目指す。
- 3 インバウンドや団体旅行など新たな需要を掘り起こし、只見線の更なる利用者増加を図るため、情報の受け皿を整備し確実な情報を発信しながら、戦略的広報により国内外に只見線を強くPRする。



只見線利活用計画 アクションプログラム2018（主要事業）

1 目指せ海の五能線、山の只見線プロジェクト

観光路線

地域資源を掘り起こし、磨き上げながら、列車内で会津の自然や文化に触れることができる只見線ならではの企画列車を運行する。

（只見線利活用計画）

KPI 企画列車年間利用者数 3,600人(2022)

KGI 企画列車の定期運行



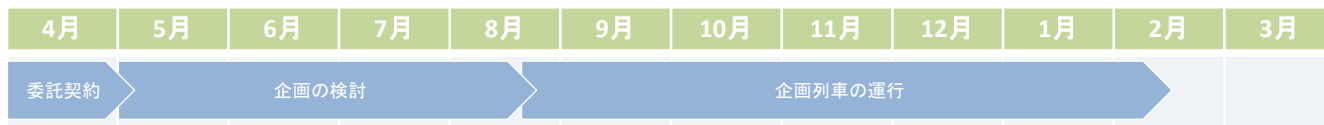
企画列車の運行

実施者 只見線利活用プロジェクト推進チーム

予算額 [福島県] 只見線活用による奥会津振興事業 30,998千円 ※全体事業費

地域が主体となり、只見線のガイドや車内や停車駅での地酒やご当地の食の提供、振舞いや伝統芸能の披露など、会津地域ならではの、ものづくりや伝統文化の体験をセットにした企画列車を運行する。

ヒト・モノ・コト・イロ、この地域にしかない資源を掘り起こし、磨き上げながら、地域の強みを活かした企画を多数実施する。



KPI 企画列車を年5回運行、乗車率80%(定員100名)、利用者満足度90%、企画数15本

（主な関連事業）

イベント列車運行時のおもてなし

イベント列車運行時の駅・車内でのおもてなしイベントの実施や、物産販売等を通して、只見線の利用促進を図る。

[会津坂下町、柳津町] 予算額：会津坂下町40千円、柳津町130千円

インバウンドへの対応

インバウンドの受入体制を整備するため、外国人旅行者に対してアンケート調査を行い、ターゲットを明確にしたうえで、着地型旅行商品の造成、営業活動、販売などを行う。

[金山町]インバウンド対応事業 予算額：3,000千円

訪日外国人へのおもてなし

只見線を利用して訪日外国人が多く訪れる第一只見川橋梁ビューポイントまでの二次交通と、通訳での案内や道の駅でのおもてなし事業を実施する。観光施設への送迎や現地観光案内など着地型観光に取り組む。

[三島町] みしま観光ブランド構築のための外国人おもてなし事業 予算額：652千円

車窓ガイドブック作成

JR只見線利用促進実行委員会を中心に、只見線利用促進イベントの実施や、車窓ガイドブックの作成を行い、只見線の利用促進を図る。

[只見町] JR只見線利用促進実行委員会補助金 予算額：6,000千円

※全体事業費

2 奥会津景観整備プロジェクト

観光路線

奥会津の風景を阻害している杉や雑木を伐採し、ビュースポットを整備するなど、奥会津の美しい景観を形成する。

（只見線利活用計画）

KPI 杉の伐採箇所数 10箇所(2022)

KGI ビュースポット・ポケットパークの整備
自然散策路の整備

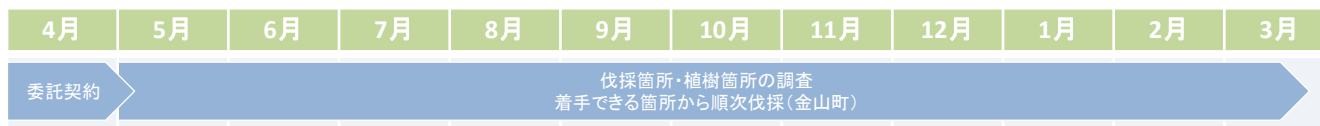


景観支障木の伐採等

実施者 金山町、只見町

予算額 [金山町]只見線活性化事業 1,200千円、[只見町]只見線景観整備事業 500千円

只見線沿線の景観や車窓風景を阻害する景観支障木の伐採や落葉広葉樹の植樹により、只見線の美しい景観を形成する。平成30年度は、伐採箇所及び植樹箇所を調査し、伐採計画を策定するとともに、着手できる箇所から順次伐採を開始する。



KPI 伐採箇所・植樹箇所の調査 10箇所



（主な関連事業）

地域づくりを支援

地域資源を活用した住民主体の地域づくりを支援するため、地域づくり団体・市町村とともに交流人口の拡大に結びつく戦略を策定し、ソフト・ハード両面からの地域活性化を図る。（只見線沿線地域においては、ポケットパーク整備に向けた調査を実施予定）

[福島県] 元気ふくしま、地域づくり・交流促進事業 予算額:2,000千円

三島町ビューポイント環境整備

三島町で最も外国人観光客が訪れる第一只見川橋梁ビューポイントにおいて、冬期間も安全に上り下りできるように遊歩道の再整備など環境整備を行う。

[三島町]三島町ビューポイント維持管理事業 予算額:1,500千円

景観の整備

大志ビュースポットの草刈りや除雪など、住民や訪れる人々が気持ちよく生活・利用できるよう景観整備を行う。

[金山町] 金山町景観整備事業 予算額:5,000千円

駅周辺の環境整備

ボランティアが駅周辺の花壇やプランターに花を植えるなど、駅周辺の景観整備を行うことで、只見線利用者へのおもてなしを行うとともに、只見線の利用を促進する。

[只見町] つながれつなぐ只見線応援事業補助金 予算額:3,000千円

※全体事業費

只見線利活用計画 アクションプログラム2018（主要事業）

3 只見線学習列車プロジェクト

教育路線

ダム、自然、暮らし、農業、食、体験など、地域の教育資源を活用しながら、駅や列車内で環境教育や体験学習を行う。

（只見線利活用計画）

KPI 学習列車参加校 60校（2022）

KGI 学習列車の持続的な運行



学習列車の運行

実施者 只見線利活用プロジェクト推進チーム

予算額 [福島県] 只見線活用による奥会津振興事業 30,998千円 ※全体事業費

自然・景観・歴史・暮らしなど、只見線沿線にある数多くの学習資源を活用し、列車内で特色ある体験学習を実施する。住民、企業、行政が一丸となって、学習列車で訪れる小学校の受入を行うとともに、地域の特色を活かした多彩な企画を実施する。

例) 地元案内人による地域紹介、奥会津編み組細工体験、赤べこ伝説・あわまんじゅうの振舞い



KPI 学習列車を年6回運行、参加校10校、学校満足度90%、企画数8本

（主な関連事業）

歴史・文化学習用パンフレット

既存の観光パンフレットに加え、歴史や文化など学びの学習を追加して地域の魅力をPRする。小学校高学年であれば理解できるよう、分かりやすいものとして、学習列車での活動など、幅広く活用する。

[会津・南会津地方振興局] 只見線魅力再発見事業ほか 予算額: 1,350千円

文化財の整備

金山町の文化財となっている施設の再整備を行うことで、旅行者等が訪れる場所とする。将来的には只見線の駅から徒歩圏内の施設の再整備も行う予定。

[金山町] 文化財の整備 予算額: 1,000千円

只見線復旧支援ツアー

夏休み期間中、会津若松市内在住の小学校3～6年生を対象に、①会津鉄道会津線、②奥会津地域の魅力体験、③JR只見線の乗車体験がセットになったツアーを企画・実施する。

[会津若松市] 只見線復旧支援ツアー 予算額: 700千円

乗るだけ鉄人！乗って楽しむ鉄道ガイド

只見線の車窓から見えるポイントや豆知識を只見線ガイドが案内する。また、不通区間の復興状況などもバス車内で案内を行う（代行バスではなく、貸切バスでの案内）

[只見町観光まちづくり協会] 予算額: 300千円

4 奥会津サテライトキャンパス整備プロジェクト

教育路線

サテライトキャンパスを開設し、公開講座や学生のセミナーハウスなどとして活用することで、地域の拠点となる場を創出する。

（只見線利活用計画）

KPI 大学生等交流活動参加者数 1,000人(2022)

KGI サテライトキャンパスの新設



首都圏大学生との奥会津プロジェクト

実施者 会津大学・会津大学短期大学部・専修大学・拓殖大学・東京大学等（五十音順）

予算額 1,500千円

金山町が整備している、冬期間一人暮らしの高齢者が共同生活を送るための多目的共同住宅を活用し、首都圏大学生の交流活動を行うとともに、サテライトキャンパスの実現に向けて、学生が主体となった現地調査やイベントを実施する。



KPI 首都圏大学生との奥会津プロジェクト延べ参加者数 70名



（主な関連事業）

大学生の力を活用

過疎・中間地域の担い手不足を解消し、地域コミュニティを維持・確保するため、県内外の大学生の力を活用して集落活性化を図るとともに、大学生等が地域づくりを学びながら、地域との交流を継続することで、将来的な定住・二地域居住につなげる。

〔福島県〕大学生等による地域創生推進事業 予算額：6,612千円

空き家等を活用した移住者受入

奥会津の課題である空き家等を活用し、移住者の受入により雪国での田舎暮らしや若者の起業を支援し、地域の活力の向上をめざす。空き家の改修に対する補助のほか、起業支援や雇用支援の補助も実施する。

〔三島町〕三島町空き家・住宅改修費等補助金 予算額：11,250千円

只見線体験ツアー

多彩な体験ツアーを実施することで、参加者が只見線と地域の隠れた魅力に触れるきっかけを作るとともに、参加者の声を今後の利活用プロジェクトに活かす。

〔福島県〕只見線活用による奥会津振興事業 予算額：30,998千円

※全体事業費

多目的共同住宅の管理

冬期間に一人暮らしの高齢者が共同生活を送るための多目的共同住宅の維持管理を行う。冬期間以外は、移住者の体験住宅や学生のセミナーハウス等としても活用が可能となる。

〔金山町〕多目的共同住宅事業 予算額：881千円

只見線利活用計画 アクションプログラム2018（主要事業）

5 みんなの只見線プロジェクト ～只見線に乗って～

生活路線

地域の機運を高め、マイレール意識を醸成することで、只見線の利用促進を図るとともに、来訪者へのおもてなしの心を醸成する。

（只見線利活用計画）

KPI 住民等による只見線利活用企画数 100本(2022)
KGI 全住民参加型の利活用促進・受入体制整備、ダイヤ見直し

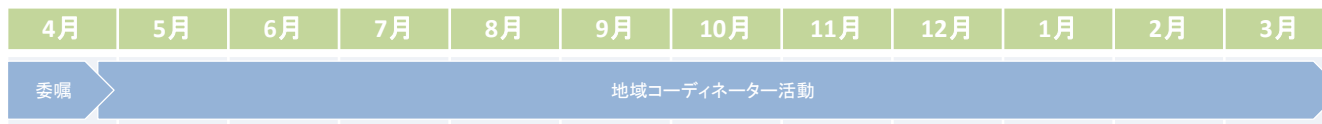


地域コーディネーターの設置

実施者 只見線利活用プロジェクト推進チーム

予算額 ー 千円

只見線の復旧及び利活用に対する意識が各市町や企業、住民ごとに異なっている状況を踏まえ、只見線沿線という帰属意識の醸成を図るとともに、地域一体の取組となるため、新たに地域コーディネーターを設置する。地域コーディネーターが企業、団体、住民等と対話を行い、只見線利活用計画の周知、只見線関連情報の集約、発信及び各プロジェクトの調整を行いながら、地域を積極的に巻き込んでいく。



KPI 住民等による只見線利活用企画数 20本



（主な関連事業）

駅前冬季イルミネーション

只見線の復興と利用者へのおもてなしによる利用促進、地域の活性化に寄与することを目的として、冬期間中、イルミネーション事業を行い、街中を美しく彩る。

〔会津美里町、会津坂下町、柳津町ほか〕

只見線のりのり倶楽部

金山町民の只見線の乗車促進を中心に、町のイベントに只見線の利用で訪れた観光客にノベルティ等を提供するなど、只見線の利用促進を図る。

〔金山町〕JR只見線復旧応援団事業 予算額：3,000千円

只見線応援事業への補助

町内の各種団体、学校、企業など5人以上で構成したグループが実施する只見線の利用や活性化につながる事業に対し、最大10万円の補助金を交付する。

〔只見町〕つながれつながれ只見線応援事業補助金 予算額：3,000千円

だんだんど～も只見線沿線元気会議

只見線の復旧と存続、沿線地域の活性化に向け、各種取組を関係機関（県、市、商工会、コミュニティ協議会等）が連携しながら実施する。

〔だんだんど～も只見線沿線元気会議（新潟県）〕

だんだんど～も只見線沿線元気会議事業 予算額：未定

只見線利活用計画 アクションプログラム2018（主要事業）

6 只見線産業育成プロジェクト

産業路線

ガイドの養成や商品開発など、只見線を活用しながら、地域ならではの産業を育成することで、住民が活躍できる場を創出する。

（只見線利活用計画）

KPI 只見線関連商品開発数 30品（2022）

KGI 地域経済の活性化・住民が活躍できる場の創出

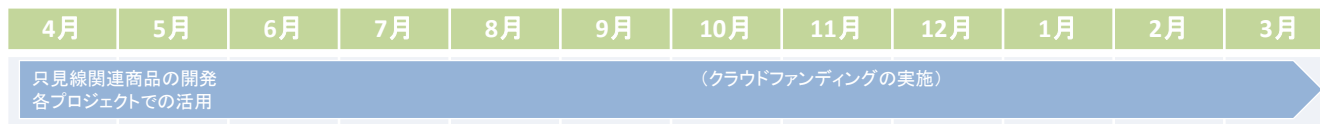


只見線関連商品の開発

実施者 県、市町村、民間企業、住民等

予算額 ー 千円

只見線の写真やイラストを使用した商品の開発・復活を通して、只見線をPRするとともに、各プロジェクトで活用することで、相乗効果をもたらす。また、クラウドファンディングも活用し、全国へ共感の輪を広げるとともに、集めた資金を各事業に活かす。



KPI 只見線関連商品開発数 5品



（主な関連事業）

食育弁当の開発

地域の特産をふんだんに使った食育弁当を大学、企業と連携して開発し、学習列車時に提供することで、地域ならではの食材や食文化に触れるきっかけをつくる。

〔福島県〕只見線活用による奥会津振興事業 予算額：30,998千円
※全体事業費

六次化製品の開発・販路拡大

「奥会津フェア」や「奥会津ブランドフェア」等の展示会を開催し、奥会津の製品の知名度を向上させ、マーケティング調査等を通じ、商品のブラッシュアップや販路拡大に繋げる。

〔奥会津振興センター〕新編「歳時記の郷・奥会津」活性化事業
（奥会津六次化製品開発・販路開拓事業） 予算額：2,875千円

只見線の利用啓発活動

只見線だよりの発行や只見線グッズの作成、PRポスターやチラシの作成などを通して、町民の意識向上と只見線の利用促進を図る。

〔只見町〕JR只見線利用促進実行委員会補助金 予算額：6,000千円
※全体事業費

只見線オリジナルグッズの企画・販売

「気軽に応援できる只見線」をコンセプトに、只見線のオリジナルグッズを企画し、沿線町村の道の駅や観光施設での販売を呼びかけ、沿線一体でPRを行う。

〔只見町観光まちづくり協会〕 予算額：500千円

只見線利活用計画 アクションプログラム2018（主要事業）

7 只見線二次交通整備プロジェクト

二次交通事業の拡充や駐車場対策により、生活利用、観光利用の両面で、只見線の利用促進を図る。

（只見線利活用計画）

KPI 只見線駅と接続する新規路線数 6路線（2022）

KGI 只見線を核とした公共交通網の構築



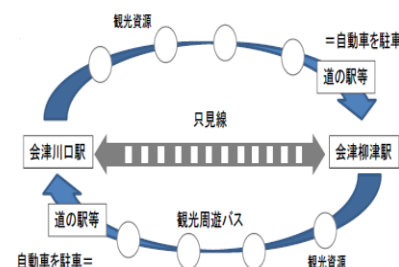
道の駅を活用したパークアンドライド

実施者 只見線利活用プロジェクト推進チーム

予算額 [福島県]来て。乗って！あいづ二次交通強化支援事業 45,474千円 ※全体事業費

大型駐車場を保有する道の駅等と連携し、只見線利用者のための駐車場を確保するとともに、観光周遊バスを活用した二次交通対策を実施し、自動車利用者が只見線に乗れる仕組みを構築する。

地域資源を巡る観光周遊バスを運行し、行きは只見線、帰りは観光周遊バスのモデルを作りながら、只見線の乗り継ぎの悪さを補うことで、只見線の利用者数を増やす。



KPI 柳津・会津川口間 観光周遊バス利用者数 1,000人

（主な関連事業）

タクシープランの造成

小型タクシーを貸し切りにして観光名所を巡るタクシープランを造成し、多様化する外国人観光客のニーズに対応しながら只見線沿線と奥会津地域への誘客を図る。

[奥会津振興センター]奥会津二次交通確保事業 予算額:800千円

公共交通の確保

会津川口駅から昭和村までの公共交通としての役割を担う会津バスへの経済的支援を行う。

[金山町]会津バス運行存続事業

予算額:6,240千円

町営バス・デマンドバス

三島町民向けの町営バス・デマンドバスの運行を実施する。また、只見線から第一只見川橋梁ビューポイントをはじめとする観光施設までの二次交通としても利用が可能。

[三島町]町営バス運行事業

予算額:28,707千円

生活交通対策

会津若松市への公共交通機関である只見線の昭和村民による利活用及び昭和村へ只見線を利用して訪れる方の利便性向上のため、会津バスと連携して、路線バスの運行を行う。

[昭和村]昭和村生活交通対策事業

予算額:11,638千円

只見線利活用計画 アクションプログラム2018（主要事業）

8 只見線魅力発信プロジェクト

只見線のプロモーションを強化し、ウェブページやSNS、テレビなど、様々な媒体により、地域の魅力を発信する。

（只見線利活用計画）

KPI 首都圏の只見線認知度 40%（2022）

外国人宿泊旅行者数（奥会津地域） 4,800人（2022）

KGI 全国から注目を集め、只見線に乗ってもらう。



プロモーションの強化

実施者 只見線利活用プロジェクト推進チーム

予算額 [福島県]只見線プロモーション強化事業 25,500千円

インバウンドにも対応した、情報を集約、蓄積、発信する広域的な多言語ウェブサイトを制作し、只見線の魅力を広く発信する。

また、観光、産業、生活等の様々なシーンの動画撮影を行い、今後の情報発信、販路拡大に活用するとともに、プロモーション動画を制作し、魅力を効果的に発信する。



KPI 多言語ウェブサイト:コンテンツ数15、平均ページビュー数10,000PV/月、動画撮影:箇所数30

（主な関連事業）

吉本興業と連携したプロモーション

吉本興業と連携した只見線体験ツアーや吉本芸人によるSNS及び全国ネット番組等での情報発信を通して、只見線の地域の魅力を全国に届ける。

[福島県]只見線活用による奥会津振興事業 予算額:30,998千円

※全体事業費

フォトコンテストの開催

地域全体のさらなる復興の機運を盛り上げるため、フォトコンテストを開催する。さらに応募作品は当協議会を通じて広く活用することで、只見線沿線地域・奥会津地域をPRし、観光交流人口の拡大を図る。

[奥会津振興センター] 只見線のある風景写真コンテスト事業 予算額:720千円

奥会津のPR強化

旬な情報を効果的に情報発信するため、テレビ・インターネット等様々なメディアを用いて流域内のイベント情報や観光・物産情報を紹介し、「歳時記の郷 奥会津」の知名度を高める。

[奥会津振興センター] 新編「歳時記の郷・奥会津」活性化事業
（奥会津広域観光PR事業） 予算額:20,446千円

SNSを活用した情報発信

金山町や只見線の魅力を観光客に伝えるため、FacebookなどのSNSを活用した観光PR・情報発信を行う。

[金山町] SNSを使った金山町や只見線の観光PR・情報発信事業 予算額:7,853千円

只見線利活用計画 アクションプログラム2018（主要事業）

9 只見線プラットホーム構築プロジェクト

只見線応援団を活用しながら、各団体が活動しやすい環境を整備するとともに、住民主体の推進体制構築に向けて土台作りを行う。

（只見線利活用計画）

KPI 只見線応援団企画参加者数 1,000人
(2022)

KGI 住民主体の推進体制構築



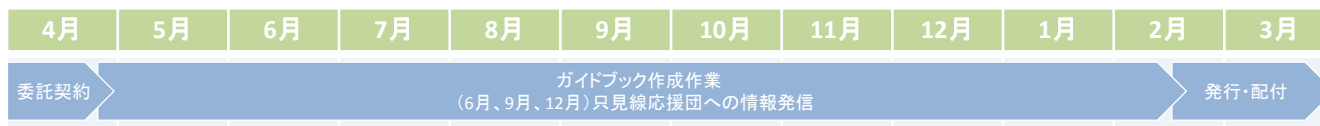
只見線ガイドブックの作成

実施者 只見線利活用プロジェクト推進チーム

予算額 只見線利活用プロジェクト推進体制強化事業 10,221千円

只見線の魅力や地元の取組の集大成である只見線ガイドブックの作成を通して、市町村や只見線の利活用に関する取組を行っている団体、協力者になり得る住民等と対話を重ね、協働していく形で、魅力の掘り起こし・磨き上げを行う。

また、会員数6万人を超える只見線応援団も活用しながら、官民の活動を活発化させる。



KPI 只見線ガイドブック A4・20頁、50,000部発行



（主な関連事業）

地域コーディネーターの設置

新たに地域コーディネーターを設置し、只見線の利活用に関する取組を行っている団体、協力者になり得る住民等と対話を重ねながら、協働していく形で魅力の掘り起こし・磨き上げを行う。

〔福島県〕 予算額：一 千円

只見線応援団に対する情報発信

只見線の復旧状況や只見線利活用計画の概要、各団体・住民の活動状況について、地域住民や只見線応援団へ周知することで、只見線の復旧に向けた利活用の機運を高める。

〔福島県〕 只見線利活用プロジェクト推進体制強化事業 予算額：10,221千円
※全体事業費

奥会津地域人材育成

インバウンドを含む奥会津地域への誘客を進めるため、受入側である奥会津地域の誘客施設のサービス品質の図るとともに、観光産業を担う人材の育成や通訳ガイドの養成を行う。

〔奥会津振興センター〕新編「歳時記の郷・奥会津」活性化事業
(奥会津人材育成事業) 予算額：3,691千円

受入体制の強化

金山町、只見町が連携し、外部有識者を招いてのワークショップの開催、観光人材の育成、着地型旅行商品の造成など、人的側面から受入体制の強化を行う。

〔金山町、只見町〕JR只見線受入体制強化事業 予算額：2,000千円 10

只見線利活用計画 アクションプログラム2018（各プロジェクト事業一覧）

目指せ海の五能線、山の只見線プロジェクト

整理 番号	実施者	事業名	概 要	予算額 単位：千円
1 【主要】	福島県 (只見線利活用 プロジェクト推進 チーム)	只見線活用による 奥会津振興事業	地域が主体となり、只見線のガイドや車内や停車駅での地酒やご当地の食の提供、振舞いや伝統芸能の披露など、会津地域ならではの、ものづくりや伝統文化の体験をセットにした企画列車を運行する。	30,998 千円 ※全体事業費
2	会津坂下町	イベント列車のおもてなし	只見線におけるイベント列車運行時に駅でのおもてなしや、物産販売等を行い只見線の利用促進を図る。	40
3	実行委員会 (会津坂下町ほか)	只見線復興支援 新宿ともしび「うたごえ列車」事業	地域の有志で結成した実行委員会を主体として、うたごえ喫茶の新宿ともしびを迎え、臨時列車内でイベントを開催。また、金山町及び会津坂下町においてはうたごえ喫茶を開催し、只見線の利用促進と地域活性化を図る。	1,300
4	柳津町	JR只見線活性化事業	あわまんじゅうの振る舞い等のおもてなしを実施することで、只見線の利用活性と次年度以降のイベント列車運行に繋げる。また、柳津町の食、景観、伝統芸能、おもてなしの心をアピールし観光客として再来していただくことを目的とする。	130
5	只見川ライン観光協会	特別列車運行事業	只見線復興応援企画として特別列車運行にあわせ、乗車率向上を図るため車内での地酒試飲サービスや会津川口駅での奥会津うまいもの市などを実施する。	1,500
6	三島町	みしま観光ブランド構築 のための外国人おもてなし事業	只見線を利用して訪日外国人が多く訪れる第一只見川橋梁ビューポイントまでの二次交通の運行と、通訳での案内や道の駅でのおもてなし事業を実施。観光施設への送迎や現地観光案内など着地型観光への取組む。	652
7	金山町	インバウンド対応事業	インバウンドの受入体制を整備するため、外国人旅行者に対してアンケート調査を行い、ターゲットを明確にしたうえで、着地型旅行商品の造成、営業活動、販売などを行う。	2,940
8	只見町	JR只見線利用促進 実行委員会補助金	JR只見線利用促進実行委員会を中心に、只見線利用促進イベントの実施や、車窓ガイドブックの作成を行い、只見線の利用促進を図る。	6,000 ※全体事業費
9	只見町 観光まちづくり 協会	只見線特別列車 歓迎イベント	JR新潟支社や仙台支社で企画する特別列車の運行に合わせた駅でのPRイベントを実施する。また、町内のイベント時に只見線での来場者に記念品のプレゼントなどを行う。	300
10	魚沼市 観光協会	臨時列車の運行	新潟県の補助金を活用した臨時列車の運行を行う。詳細は未定だが、夏休みの期間など、増便することにより利便性を高め、沿線の誘客につなげる。	未定
11	魚沼市観光協会	こども車掌体験	臨時列車の運行に合わせて実施。車掌の衣装(男女で別のデザイン)に着替え、きっぷ確認など車掌の業務を体験する。	未定

只見線利活用計画 アクションプログラム2018（各プロジェクト事業一覧）

奥会津景観整備プロジェクト	整理番号	実施者	事業名	概要	予算額 単位：千円
	1 【主要】	金山町	只見線活性化事業	只見線沿線の景観を阻害する支障木について、平成30年度は調査・伐採計画策定を行うとともに、着手できる所から伐採を開始する。平成31年度から策定した計画に沿って伐採を本格的に開始する。	1,200
	2 【主要】	只見町	只見線景観整備事業	杉の伐採と落葉広葉樹の植樹により、只見線の美しい景観を形成する。	500
	3	福島県	元気ふくしま、地域づくり・交流促進事業	地域資源を活用した住民主体の地域づくりを支援するため、地域づくり団体・市町村とともに交流人口の拡大に結びつく戦略を策定し、ソフト・ハード両面からの地域活性化を図る。（只見線沿線地域においては、ポケットパーク整備に向けた調査を実施予定）	2,000
	4	三島町	三島町ビューポイント維持管理事業	三島町で最も外国人観光客が訪れる第一只見川橋梁ビューポイントにおいて、冬期間も安全に上り下りできるように遊歩道の再整備など環境整備を行う。	1,500
	5	金山町	金山町景観整備事業	大志ビュースポットの草刈りや除雪など、住民や訪れる人々が気持ちよく生活・利用できるよう景観整備を行う。	5,000
	6	只見町	つながれつながれ 只見線応援事業補助金	ボランティアが駅周辺の花壇やプランターに花を植えるなど、駅周辺の景観整備を行うことで、只見線利用者へのおもてなしを行うとともに、只見線の利用を促進する。	3,000 ※全体事業費
只見線学習列車プロジェクト	1 【主要】	福島県 （只見線利活用プロジェクト推進チーム）	只見線活用による 奥会津振興事業	自然・景観・歴史・暮らしなど、只見線沿線にある数多くの学習資源を活用し、列車内で特色ある体験学習を実施する。住民、企業、行政が一丸となって、学習列車で訪れる小学校の受入を行うとともに、地域の特色を活かした多彩な企画を実施する。	30,998 ※全体事業費
	2	福島県 会津・南会津 地方振興局	只見線魅力再発見事業 ほか	既存の観光パンフレットに加え、歴史や文化など学びの学習を追加して地域の魅力をPRする。小学校高学年であれば理解できるよう、分かりやすいものとして、学習列車での活動など、幅広く活用する。	1,350
	3	会津若松市	只見線復旧支援ツアー	夏休み期間中、会津若松市内在住の小学校3～6年生を対象に、①会津鉄道会津線、②奥会津地域の魅力体験、③JR只見線の乗車体験がセットになったツアーを企画・実施する。	700
	4	金山町	文化財の整備	金山町の文化財となっている施設の再整備を行うことで、旅行者等が訪れる場所とする。将来的には只見線の駅から徒歩圏内の施設の再整備も行う予定。	1,000
	5	只見町観光 まちづくり協会	乗るだけ鉄人！乗って 楽しむ鉄道ガイド	只見線の車窓から見えるポイントを只見線ガイドが案内する。只見線に乗ったら覚えて帰って頂きたい豆知識もご案内。また、不通区間の復興状況などもバス車内でご案内を行う（代行バスではなく、貸切バスでのご案内）	300

只見線利活用計画 アクションプログラム2018（各プロジェクト事業一覧）

奥会津サテライトキャンパス整備プロジェクト

整理番号	実施者	事業名	概要	予算額 単位：千円
1 【主要】	会津大学・会津大学短期大学部・専修大学・拓殖大学・東京大学等	首都圏大学生との奥会津プロジェクト	金山町が整備している、冬期間一人暮らしの高齢者が共同生活を送るための多目的共同住宅を活用し、首都圏大学生の交流活動を行うとともに、サテライトキャンパスの実現に向けて、学生が主体となった現地調査やイベントを実施する。	1,500
2	福島県	大学生等による地域創生推進事業	過疎・中間地域の担い手不足を解消し、地域コミュニティを維持・確保するため、県内外の大学生の力を活用して集落活性化を図るとともに、大学生等が地域づくりを学びながら、地域との交流を継続することで、将来的な定住・二地域居住につなげる。	6,612
3	福島県	只見線活用による奥会津振興事業	多彩な体験ツアーを実施することで、参加者が只見線と地域の隠れた魅力に触れるきっかけを作るとともに、参加者の声を今後の利活用プロジェクトに活かす。	30,998 ※全体事業費
4	三島町	三島町空き家・住宅改修費等補助金	奥会津の課題である空き家等を活用し、移住者の受入により雪国での田舎暮らしや若者の起業を支援し、地域の活力の向上をめざす。空き家の改修に対する補助のほか、起業支援や雇用支援の補助も実施する。	11,250
5	金山町	金山町景観整備事業	冬期間に一人暮らしの高齢者が共同生活を送るための多目的共同住宅の維持管理を行う。冬期間以外は、移住者の体験住宅や学生のセミナーハウス等で活用する。	881

みんなの只見線プロジェクト

1 【主要】	福島県（只見線利活用プロジェクト推進チーム）	地域コーディネーターの設置	只見線の復旧及び利活用に対する意識が各市町や企業、住民ごとに異なっている状況を踏まえ、只見線沿線という帰属意識の醸成を図るとともに、地域一体の取組となるため、新たに地域コーディネーターを設置する。	—
2	会津美里町商工会（女性部等）	駅前冬季イルミネーション事業	只見線利用者に沿線地域の良さを知っていただく機会と、駅前の冬季イルミネーションによるおもてなし。	約2
3	会津美里町	会津美里町職員共助会による只見線運賃助成事業	只見線の利用促進を図るため、会津美里町職員共助会員（家族を含む）が只見線を利用した際の運賃を助成する。	約200
4	実行委員会（会津坂下町ほか）	駅前イルミネーション	只見線の復興と利用者のおもてなしによる利用促進、地域の活性化に寄与することを目的として、冬場（12月～1月）に会津坂下駅前においてイルミネーション事業を行う。また、イルミネーションストリートinばんげとして協賛者を募り、駅から町役場まで伸びる県道停車場線を中心にしながら町中を美しく彩る。	700

只見線利活用計画 アクションプログラム2018（各プロジェクト事業一覧）

みんなの只見線プロジェクト

整理 番号	実施者	事業名	概 要	予算額
5	柳津町	民間と共同しての駅舎の利活用	駅舎の利活用及び美化活動により、受入体制の整備をおこない只見線の利用促進を図る。	15 千円
6	柳津町商工会	イルミネーション&ライトアップ事業	会津柳津駅周辺、及びまちなかで季節に合わせたイルミネーション、ライトアップを実施しまちなか活性化、誘客促進を図る。	550 千円
7	柳津町職員互助会	職員互助会による助成事業	只見線及び代行バスを利用するツアーに対して助成をおこない、利用促進を図る。	一 千円
8	実行委員会 (柳津町ほか)	霊まつり流灯 花火大会事業	花火大会を通して観光客の誘客、只見線の利用促進を図る。	15, 300 千円
9	柳津町	会津柳津駅待合室暖房 管理事業	只見線利用者に快適に会津柳津駅を利用してもらえるよう、冬期間の待合室における暖房管理をおこなう。	435 千円
10	金山町	JR只見線 復旧応援事業	只見線のりおり倶楽部事業を立ち上げ、町民の只見線の乗車促進を中心に、町のイベントに只見線の利用で訪れた観光客にもノベルティ等を用意する等只見線の利用促進を図る。	3, 000 千円 ※全体事業費
11	只見町	つながれつながれ 只見線応援事業補助金	只見町内の各種団体、学校、企業など5人以上で構成したグループが実施する、只見線の利用や活性化につながる事業に対し、最大10万円の補助金を交付する。	3, 000 千円 ※全体事業費
12	只見町	只見線車両にみんなで 手を振ろう事業	只見線車両に手をふる活動を広めることにより、乗客者へおもてなしの気持ちを示し、只見線に対する愛着を深め、只見線を応援する姿勢を示すことを目的とする。	一 千円
13	只見町観光 まちづくり協会	只見駅開業記念日 バースデイイベント	開業日の8月20日に只見駅前広場でファンの方や町民の方が集えるイベントを企画し実施する。	50 千円
14	只見町観光 まちづくり協会	只見線全線開通記念日 只見線に乗って会いに行こう	全線開通を祝して、沿線住民に乗車を促す取り組みの一環。	一 千円
15	だんだんど〜も 只見線沿線 元気会議 (新潟県)	だんだんど〜も只見線 沿線元気会議事業	只見線の復旧と存続、沿線地域の活性化に向け、各種取組を関係機関(県、市、商工会、コミュニティー協議会等)が連携しながら実施。	未定

只見線利活用計画 アクションプログラム2018（各プロジェクト事業一覧）

只見線産業育成プロジェクト

整理 番号	実施者	事業名	概 要	予算額 単位：千円
1 【主要】	県、市町村、 民間企業、 住民等	只見線関連商品の開発	只見線の写真やイラストを使用した商品の開発・復活を通して、只見線をPRするとともに、各プロジェクトで活用することで、相乗効果をもたらす。	—
2	福島県	只見線活用による 奥会津振興事業	地域の特産をふんだんに使った食育弁当を大学、企業と連携して開発し、学習列車時に提供することで、地域ならではの食材や食文化に触れるきっかけをつくる。	30,998 ※全体事業費
3	奥会津振興 センター	奥会津六次化産品開 発・販路開拓事業	「奥会津フェア」や「奥会津ブランドフェア」等の展示会を開催し、奥会津の製品の知名度を向上させ、マーケティング調査等を通じ、商品のブラッシュアップや販路拡大に繋げる。	2,875
4	只見町	JR只見線利用促進実 行委員会補助金	只見線だよりの発行や只見線グッズの作成、PRポスターやチラシの作成などを通して、町民の意識向上と只見線の利用促進を図る。	6,000 ※全体事業費
5	只見町観光 まちづくり協会	只見線オリジナルグッズ の企画・販売	「気軽に応援できる只見線」をコンセプトに、只見線のオリジナルグッズを企画し、沿線町村の道の駅や観光施設での販売を呼びかけ、沿線一体でPRを行う。	500

只見線二次交通整備プロジェクト

1 【主要】	福島県	来て。乗って！あいづ二 次交通強化支援事業	大型駐車場を保有する道の駅等と連携し、只見線利用者のための駐車場を確保するとともに、観光周遊バスを活用した二次交通対策を実施し、自動車利用者が只見線に乗れる仕組みを構築する。	45,474
2	奥会津振興 センター	奥会津二次交通確保事 業	小型タクシーを貸し切りにして観光名所を巡るタクシープランを造成し、多様化する外国人観光客のニーズに対応しながら只見線沿線と奥会津地域への誘客を図る。	800
3	三島町	町営バス運行事業	三島町民向けの町営バス・デマンドバスの運行を実施する。 また、只見線から第一只見川橋梁ビューポイントをはじめとする観光施設までの二次交通としても利用が可能。	28,707
4	金山町	会津バス運行存続事業	会津川口駅から昭和村への公共交通としての役割を担う会津バスに対して経済的支援を行う。	6,240
5	昭和村	昭和村生活交通対策事 業	会津若松市への公共交通機関である只見線の昭和村民による利活用及び昭和村へ只見線を利用して訪れる方の利便性向上のため、会津バスと連携して、路線バスの運行を行う。	11,638

只見線利活用計画 アクションプログラム2018（各プロジェクト事業一覧）

只見線魅力発信プロジェクト

整理 番号	実施者	事業名	概 要	予算額 単位：千円
1 【主要】	福島県 (只見線利活用 プロジェクト推進 チーム)	只見線プロモーション 強化事業	インバウンドにも対応した、情報を集約、蓄積、発信する広域的な多言語ウェブサイトを制作し、只見線の魅力を訴求する情報のプラットフォームを構築する。 また、観光、産業、生活等の様々なシーンを動画、ドローン等で記録し、今後の情報発信、販路拡大に活用するとともに、プロモーション動画を制作し、ポスター等と連動させながら、魅力を発信する。	25,500
2	福島県	只見線活用による 奥会津振興事業	吉本興業と連携した只見線体験ツアーや吉本芸人によるSNS及び全国ネット番組等での情報発信を通して、只見線の地域の魅力を全国に届ける。	30,998 ※全体事業費
3	奥会津振興 センター	只見線のある風景写真 コンテスト事業	地域全体のさらなる復興の機運を盛り上げるため、フォトコンテストを開催する。さらに応募作品は当協議会を通じて広く活用することで、只見線沿線地域・奥会津地域をPRし、観光交流人口の拡大を図る。	720
4	奥会津振興 センター	奥会津のPR強化	旬な情報を効果的に情報発信するため、テレビ・インターネット等様々なメディアを用いて流域内のイベント情報や観光・物産情報を紹介し、「歳時記の郷 奥会津」の知名度を高める。	20,446
5	会津美里町	只見線に関する情報発 信事業	只見線の利用促進や全線復旧に関する情報を町広報紙や町ホームページで発信する。	—
6	金山町観光 物産協会	金山町観光情報セン ター運営事業	金山町の玄関口である会津川口駅の構内にて観光のPRを行う。	4,818
7	金山町	SNSを使った金山町や 只見線の観光PR・情報 発信事業	金山町や只見線の魅力を観光客に伝えるため、FacebookなどのSNSを活用した観光PR・情報発信を行う。	7,853
8	北塩原村	只見線PR対策	北塩原村が実施する各事業において、交通手段・観光ルートの一つとして只見線をPRする。 ・首都圏等との交流事業において、交通手段としてPR ・観光施策における一つの観光ルートとしてPR	—

只見線利活用計画 アクションプログラム2018（各プロジェクト事業一覧）

只見線プラットフォームホーム構築プロジェクト

整理番号	実施者	事業名	概要	予算額 単位：千円
1 【主要】	福島県 (只見線利活用プロジェクト推進チーム)	只見線利活用プロジェクト推進体制強化事業	只見線の魅力や地元の取組の集大成である只見線ガイドブックの作成を通して、市町村や只見線の利活用に関する取組を行っている団体、協力者になり得る住民等と対話を重ね、協働していく形で、魅力の掘り起こし・磨き上げを行う。	10,221 ※全体事業費
2	福島県	地域コーディネーターの設置	新たに地域コーディネーターを設置し、只見線の利活用に関する取組を行っている団体、協力者になり得る住民等と対話を重ねながら、協働していく形で魅力の掘り起こし、磨き上げを行う。	—
3	福島県	只見線利活用プロジェクト推進体制強化事業	只見線の復旧状況や只見線利活用計画の概要、各団体・住民の活動状況について、地域住民や只見線応援団へ周知することで、只見線の復旧に向けた利活用の機運を高める。	10,221 ※全体事業費
4	奥会津振興センター	奥会津人材育成事業	インバウンドを含む奥会津地域への誘客を進めるため、受入側である奥会津地域の誘客施設のサービス品質の図るとともに、観光産業を担う人材の育成や通訳ガイドの養成を行う。	3,691
5	金山町 只見町	JR只見線受入体制強化事業 ほか	金山町、只見町が連携し、外部有識者を招いてのワークショップの開催、観光人材の育成、着地型旅行商品の造成など、人的側面から受入体制の強化を行う。	2,000



只見線利活用計画 アクションプログラム2018 【参考】県関連事業 1

整理番号	実施者	事業名	概要	予算額 単位:千円
1	福島県 (地域振興課)	ふくしまふるさとワーキングホリデー事業	都市部の若者等が一定期間本県に滞在し、働きながら地域との交流などを通して、福島暮らしを学び、体験する国内版ワーキングホリデーを実施する。	19,146
2	福島県 (地域振興課)	福島に来て。交流・移住推進事業	地域の担い手となる人材を確保するため、交流人口や関係人口の拡大を図りながら、本県の魅力の情報発信及び移住者等の受入体制づくりを強化するとともに、市町村等が行う受入環境整備の取組を支援するなど、本県への移住促進を図る。	202,842
3	福島県 (地域振興課)	地域資源を活用した利雪・克雪事業	過疎・中間地域の課題である冬期間の収入確保を図るため、地域自らがスキー場などの冬の地域資源を活用し、国内外からの誘客により、新たな人の流れをつくり、収入確保、地域への人材定着を図る。	16,594
4	福島県 (地域振興課)	地域おこし協力隊支援事業	都市住民が地域に居住し、地域住民と共に、地域の活性化に大きな役割を果たしている地域おこし協力隊制度を活用して、地域おこし協力隊を設置し、地域の活力向上や定住人口の拡大を図る。	98,826
5	福島県 (自然保護課)	スタートアップふくしま尾瀬事業	次世代を担う高校生、大学生等や留学生を新たな対象として尾瀬の優れた自然環境を体感するツアーや、アウトドア関連企業との連携による尾瀬の魅力体験するフェスティバル等を開催するとともに、参加者等のSNS、PR動画、雑誌などを活用した国内外への情報発信により「ふくしま尾瀬」を広くPRする。	36,117
6	福島県 (観光交流課)	ふくしまDMO推進プロジェクト事業	依然として風評被害に苦しむ本県観光の再生と観光による地域づくりを促進するため、観光地の維持・成長に向けて総合的なマネジメントを担う組織である「日本版DMO」の形成を推進する。	53,199
7	福島県 (県産品振興戦略課)	クリエイティブ伝統工芸創出事業	伝統工芸を始めとした地場産業の新たなブランド価値を創出するため、クリエイターと県内事業者とのマッチングにより、新たな商品開発を行うとともに、販路の開拓・拡大や、将来的な担い手の確保を図る。	60,921
8	福島県 (建築住宅課)	移住促進仮設住宅提供事業	定住・二地域居住を推進するため、仮設住宅を活用して“お試し住宅”等を整備する市町村に対し、仮設住宅を再利用するための解体と「建築資材」の運搬、整備する住宅等の「再利用設計」を提供することにより、事業の一部を支援する。	56,500
9	福島県 (建築指導課)	福島県空き家・ふるさと復興支援事業	移住・定住、被災者等の住宅再建を推進し、本県の活性化・復興を図るため、県外から県内への移住者や被災者等が行う空き家改修等に対し、補助金を交付する。	101,400
10	福島県 (建築指導課)	来て ふくしま 住宅取得支援事業	良質な住宅取得を行う県外から県内への移住者に対し、地域の活性化を協力に進めるため、市町村が主体となって地域の実情を踏まえて行う住宅取得支援事業に対し、補助金を交付する。	31,200
11	福島県 (建築指導課)	福島県空き家再生・子育て支援事業	市町村が取り組む空き家対策と連携し、子育て世帯の居住の安定確保や人口減少の抑制を図るため、子育て世帯が空き家を取得して行う改修工事等に対し、補助金を交付する。	41,000

只見線利活用計画 アクションプログラム2018 【参考】県関連事業 2

整理番号	実施者	事業名	概要	予算額 単位：千円
12	福島県 (生活交通課)	ふくしま地域公共交通強化支援事業	地域住民、交通事業者、市町村が連携し、持続可能な公共交通を構築するための取組を行う市町村や広域二次交通を確保する事業者等の取組に対して支援を行う。	76,649
13	福島県 (生活交通課)	生活路線バス運行維持のための補助(通常)	国の地域公共交通確保維持改善事業と協調して、市町村間をまたぐ幹線系バス路線について、一体的、持続的に支援していくことで県民の生活の足を確保する。	91,801
14	福島県 (観光交流課)	教育旅行復興事業	教育旅行の復興のため、貸切バス運賃の制度改正に伴うバス料金の値上がりに対する経費の一部補助を行うとともに、教育旅行誘致キャラバンや情報発信等を行う。また、長期宿泊需用の見込まれる学生の合宿の誘致を図る。	259,289
15	福島県 (観光交流課)	福が満開福のしま観光復興推進事業	風評払拭と本県観光の本格的な復興に向け、浜通りの復興に焦点を当てたホープツーリズムの推進や、各温泉地のリピーター促進など地域の観光魅力づくりの取組に対する支援、テーマ別観光周遊企画、閑散期の誘客強化のための秋冬観光キャンペーンなどを展開するほか、戊辰戦争から150周年を機に戊辰ゆかりの地を巡る周遊ラリー等を実施する。また、地域の交流人口拡大や地域経済に大きな効果の見込まれる大規模なコンベンションの誘致を図る。	528,649
16	福島県 (観光交流課)	福島インバウンド復興対策事業	東日本大震災等の影響により本県の訪日外国人旅行者は大きく落ち込み、全国的なインバウンド急増に遅れをとっていることから、外国人目線に立ち、各市場別の嗜好にあった施策を展開・強化することにより、本県の観光復興を加速化させる。	830,447
17	福島県 (広報課)	チャレンジふくしま戦略的情報発信事業	根強く残る風評の払拭と時間の経過とともに加速する風化の防止を図るため、市町村、国、民間企業等と連携し、復興の歩みを進める本県の姿や食と観光等の魅力を国内外に向けて発信するとともに、共感・応援の輪を拡大する取組を実施する。	366,878
18	福島県 (県産品振興戦略課)	「ふくしまプライド。」発信事業	風評払拭と本県のイメージ回復を図るため、全国新酒鑑評会で金賞受賞数が5年連続日本一となった県産日本酒や醤油など、本県が誇る県産品を国内外に向けて力強く発信し、販路の開拓・拡大、本県ブランドの向上を図る。	421,549
19	福島県 (空港交流課)	福島空港復興加速化推進事業	福島空港の国際線再開に向けた働きかけや国際チャーター便への支援を行うとともに、国内路線拡充のための観光・ビジネス利用向上施策や、空港のイメージアップ事業を展開し、福島空港を本県の空の玄関口として再生させ復興の加速化を図る。	101,400
20	福島県 (まちづくり推進課)	元気ふくしま、地域づくり・交流促進事業	地域資源を活用した住民主体の地域づくりを支援するため、地域づくり団体・市町村とともに交流人口の拡大に結び付く戦略を策定し、ソフト・ハード両面からの地域活性化を図る。	207,587
21	福島県 (地域振興課)	新編「歳時記の郷・奥会津」活性化事業	「人が住み、集まる魅力的な奥会津」を目標に、只見川電源流域7町村等が実施する只見川電源流域振興計画を支援し、奥会津の交流人口の拡大、地域産業の振興と雇用の安定確保につなげる。	199,079

只見線利活用計画 アクションプログラム2018 【参考】県関連事業 3

整理 番号	実施者	事業名	概 要	予算額 単位:千円
22	福島県 (地域振興課)	地域創生総合支援事業	住民主体の個性と魅力にあふれる地域づくりを推進するため、民間団体や市町村等が実施する地域活性化の取組を支援するとともに、地方振興局を中心とする出先機関が、地域課題に機動的かつ柔軟に対応するため、地域の実情に即した事業を企画・実施する。	878, 925
23	福島県会津 地方振興局	会津観光再興キャンペーン	会津地域の観光情報発信と広域観光の推進を図るため、観光情報センター「i らんしょ。」を運営するとともに、首都圏での観光PRを実施する。 ①会津観光情報センター「i らんしょ。」の運営、観光情報発信サポート ②首都圏における観光PRの実施	21, 999
24	福島県会津 地方振興局	学べる磐梯山(会津磐梯山エリア)魅力発信プロジェクト	会津磐梯山エリア全体が学びの場というイメージの訴求、ブランディングとして情報発信を展開し、教育旅行先としての選択率を高めるなど、誘客促進につなげる。 ①総合型プロモーション事業(動画作成、各種広報媒体を活用した情報発信) ②誘致PRキャラバン	25, 351
25	福島県会津 地方振興局	磐梯山ジオパークを活用した風評払拭事業	磐梯山ジオパーク活動の普及啓発の促進により、磐梯山エリアの風評払拭と観光振興を促進する。 ○磐梯山ジオパークを活用した風評払拭事業(インバウンド対策等、ジオグルメスタンプラリー等)	10, 444
26	福島県会津 地方振興局	おたねにんじんを活用した風評払拭プロジェクト	おたねにんじんを会津の観光資源とした観光誘客及び地元での利活用促進の取組を進める。 ①観光モニターツアーの実施 ②地元小学生体験事業(親子栽培・収穫体験、学校給食での活用)	2, 632
27	福島県会津 地方振興局	民間団体の只見線利活用促進事業	民間団体を訪問し団体の代表者等にモデルコースの下見をしていただき自主的な只見線の利用につなげる。	68
28	福島県南会津 地方振興局	「おいでよ！南会津。」教育旅行誘致促進事業	南会津地方を自然環境学習の拠点とするため、体験内容のブラッシュアップ、誘致PRキャラバンの実施、専用ワンストップ窓口の設置等を行う。	26, 300
29	福島県南会津 地方振興局	「おいでよ！南会津。」都市・農村交流拡大事業	南会津地方の魅力を多方面に発信するため、南会津地方のポータルサイト「おいでよ！南会津」を運営する。	14, 188
30	福島県南会津 地方振興局	空撮による南会津の新たな魅力発信事業	南会津地方の自然をドローンで撮影・紹介することで、観光誘客を図る。	250
31	福島県南会津 地方振興局	地域「おもてなし」向上支援事業	観光客と接する機会が多い宿泊、交通、飲食店等が、地域の魅力を効果的に発信できるようにするための取組を支援する。	200
32	福島県南会津 地方振興局	地域を活かし、地域に尽くそう！南会津ふるさと教育事業	只見線等、南会津地方の素材を使用した計算問題等を作成・配布し、小学6年生の自主学習教材として使用してもらうことで、地域愛の醸成等を図る。	167